

奄美群島振興開発アンケート調査

－事業所へのアンケート調査結果－

令和4年9月



鹿児島県

< 目 次 >

I. 調査概要	1
II. 調査結果	3
1. 回答事業所の属性	3
2. 集計結果	4
(1) 事業所の事業展開について	4
(2) 奄美群島振興開発基金（奄美基金）について	7
(3) 産業の振興について	13
(4) 奄美群島振興開発事業の評価と期待について	16
参考資料	
アンケート調査票	37

I. 調査概要

本調査の実施概要は以下のとおりとなっている。

□調査目的

奄美群島内で事業を展開する事業所が、今後の事業展開、奄美群島振興開発基金（奄美基金）、産業の振興、奄美群島振興開発事業の評価と期待などについてどのように考えているのかを把握することを目的とする。

□調査対象と回収状況

奄美群島内で事業を展開する事業所（993 事業所）を対象とした。回収状況は 504 事業所で回収率は 50.8%となっている。

【対象事業所数と回収状況】

単位：事業所、%

対象 事業所数	調査票 回収数	Web 回答数	合計 回収	合計 回収率
993	430	74	504	50.8

□調査方法

郵送による配布、郵送及びインターネットによる回収。

□調査期間

令和 4 年 7 月中旬～8 月末。

□調査項目

調査項目については、以下のとおり。

【調査項目】

属性	業種、資本金、従業員数
A 事業所の事業展開	問 1 今後（概ね 5 年以内）の設備投資の予定の有無 問 2 今後の現在の事業の拡大意向 問 3 今後の新分野への進出意向 問 4 進出したい新分野 問 5 今後の発展・成長に向けて必要な取組
B 奄美群島振興開発基金（奄美基金）	問 6 現在の主な資金調達方法 問 7 奄美基金の利用の有無 問 8 奄美基金を利用した目的又は動機（上位 2 位まで） 問 9 奄美基金を利用する際の利点（上位 2 位まで）※ 問 10 今後、奄美基金に期待すること（上位 2 位まで） 問 11 今後の奄美基金の利用意向 問 12 奄美基金を利用する予定がない理由

【調査項目（続き）】

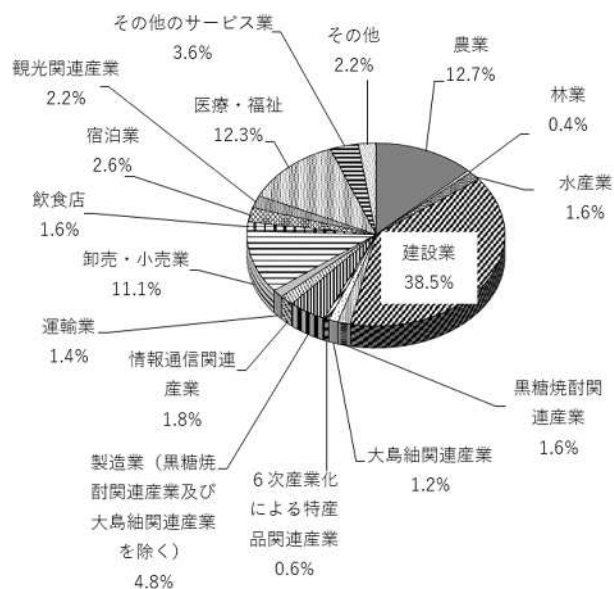
C 産業の振興	問 13 今後の島の発展・振興のために力を入れるべき産業 問 14 今後の島の水産業の振興を図るために力を入れるべきこと 問 15 今後の雇用の創出・確保を図るために力を入れるべきこと
D 奄美群島振興開発事業の評価と期待	問 16 奄美群島振興開発事業実施に伴う経営面への効果 問 17 奄美群島振興開発事業に対する満足度（42 項目） ●定住を促進するための方策（6 項目） ・産業の振興（5 項目） ・移住・交流の促進（1 項目） ●世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策（3 項目） ・世界自然遺産登録を見据えた取組の推進（1 項目） ・共生ネットワークの形成（1 項目） ・群島内外との交流の促進（1 項目） ●滞在型・着地型観光を促進するための方策（2 項目） ・地域資源を生かした観光施策の展開（1 項目） ・愛着を育む地域文化の継承、創造（1 項目） ●奄美群島が抱える条件不利性の改善（16 項目） ・航空運賃の軽減、航路運賃の軽減、群島内の誘客・周遊促進、奄美・沖縄の連携交流促進、農林水産物等の輸送コスト支援、水産物流通支援事業、奄美群島成長戦略の推進、物価の軽減（8 項目） ・交通基盤の整備（3 項目） ・防災及び国土保全（5 項目） ●奄美群島の生活基盤の確保・充実（15 項目） ・保健医療福祉（3 項目） ・教育及び人材育成（2 項目） ・生活環境（7 項目） ・資源・エネルギー（3 項目） 問 18 沖縄県の振興施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策 問 19 世界自然遺産の 4 地域が生物多様性を保全していく上で重要な地域であることについての認知度 問 20 過去 1 年間に参加したことがある活動や講演会など 問 21 奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったことで期待できることについての考え 問 22 奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったために懸念又は心配することについての考え 問 23 奄美群島の今後の問題点 問 24 奄美群島の将来の姿の希望 問 25 奄美群島振興開発特別措置法についての考え 問 26 今後の事業展開を図る上で、さらに充実させて欲しい奄美群島振興開発事業の分野 問 27 奄美群島の振興開発についての意見・提言

Ⅱ. 調査結果

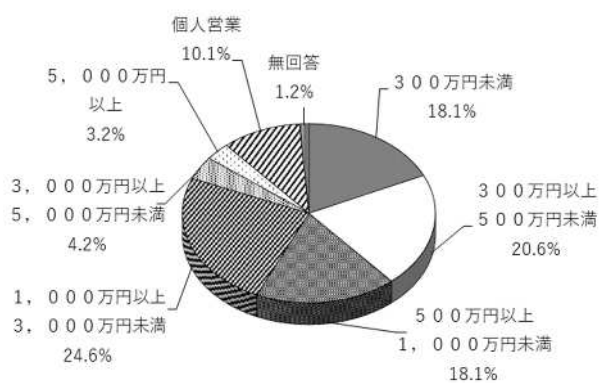
1. 回答事業所の属性

回答があった 504 事業所の属性は、以下のとおりとなっている。

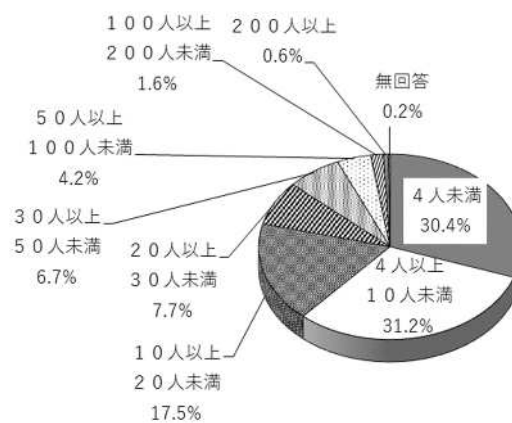
【業種（N=504）】



【資本金（N=504）】



【従業員数（N=504）】



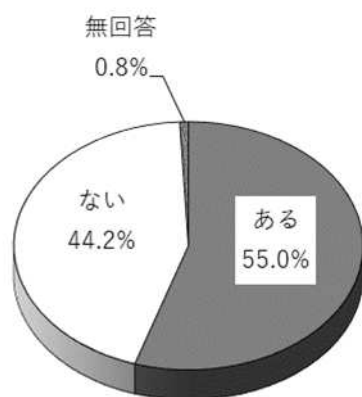
2. 集計結果

(1) 事業所の事業展開について

① 今後（概ね5年以内）の設備投資の予定の有無

今後（概ね5年以内）の設備投資の予定の有無については、「ある」が55.0%で半数を超え、「ない」は44.2%となっている。

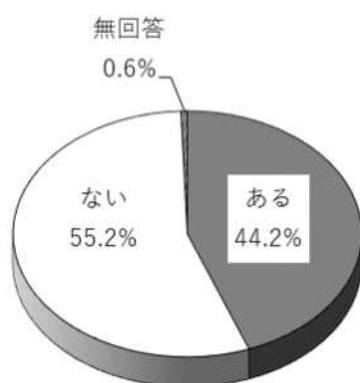
【今後（概ね5年以内）の設備投資の予定の有無（N=504）】



② 今後の現在の事業の拡大意向

現在の事業の拡大意向については、「ない」が55.2%で半数を超え、「ある」は44.2%となっている。

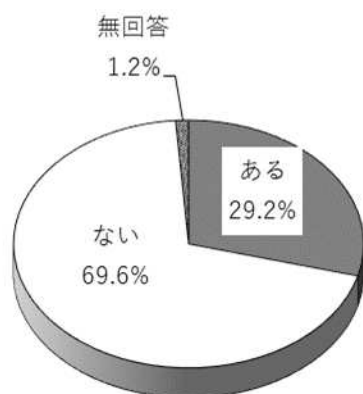
【今後の現在の事業の拡大意向（N=504）】



③ 今後の新分野への進出意向

今後の新分野への進出意向については、「ない」が約 7 割を占め、「ある」は 29.2%となっている。

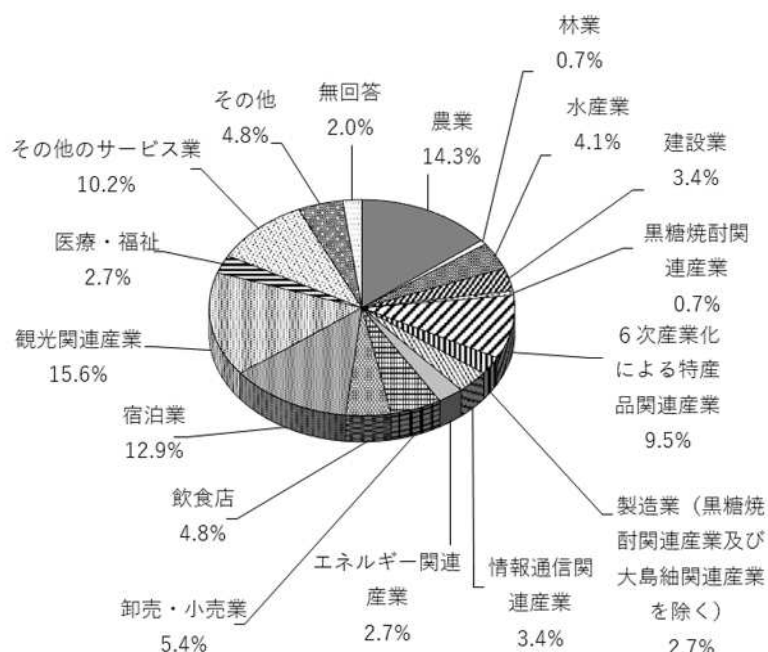
【今後の新分野への進出意向（N=504）】



④ 進出したい新分野

「新分野への進出意向がある」と回答した事業所の進出したい新分野については、「観光関連産業」が 15.6%で最も多く、次いで「農業」(14.3%)、「宿泊業」(12.9%) となっている。

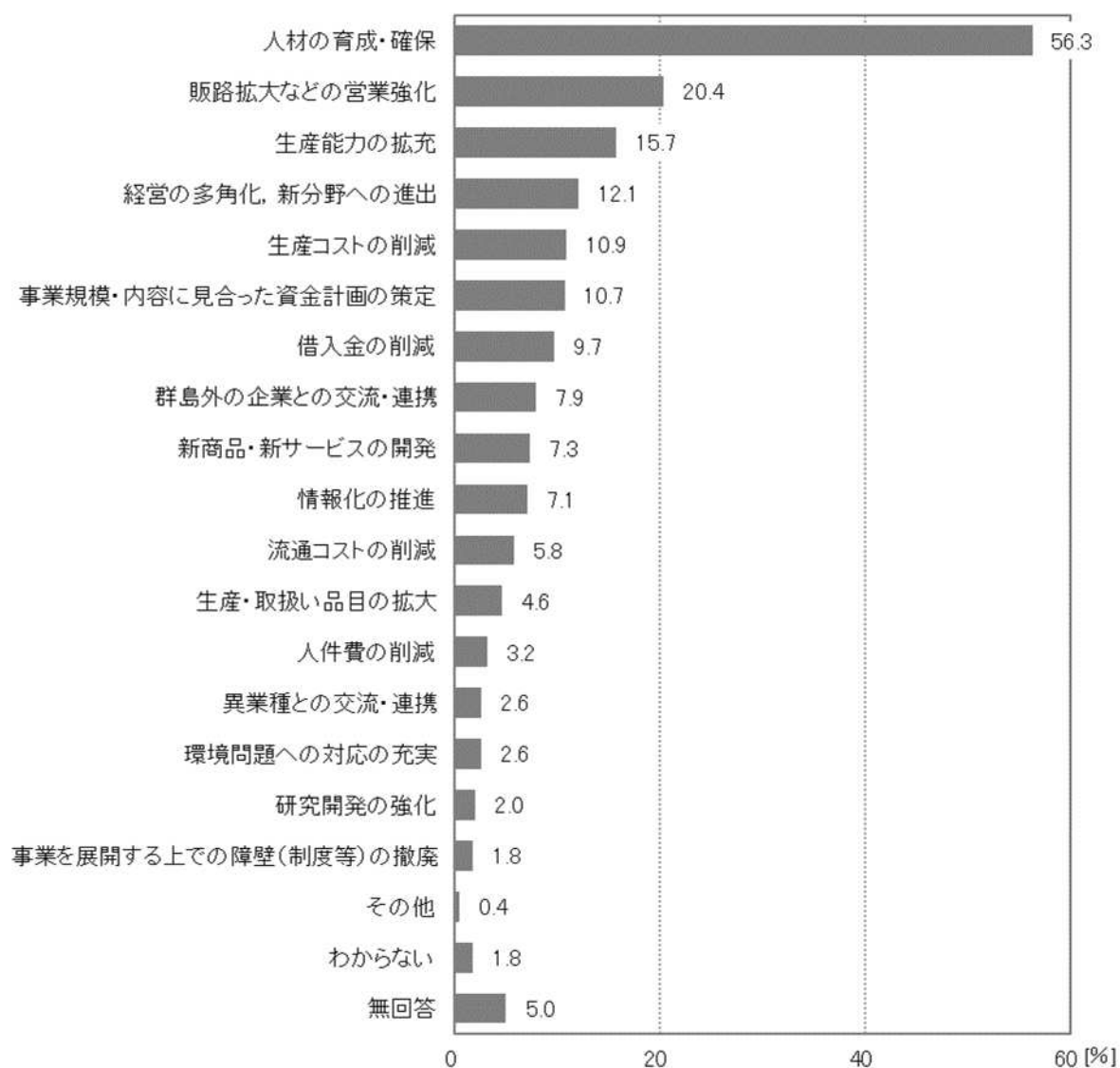
【進出したい新分野（N=147）】



⑤ 今後の発展・成長に向けて必要な取組

今後の発展・成長に向けて必要な取組については、「人材の育成・確保」が56.3%で突出して最も多く、次いで「販路拡大などの営業強化」(20.4%)、「生産能力の拡充」(15.7%)などとなっている。

【今後の発展・成長に向けて必要な取組 (N=504)】

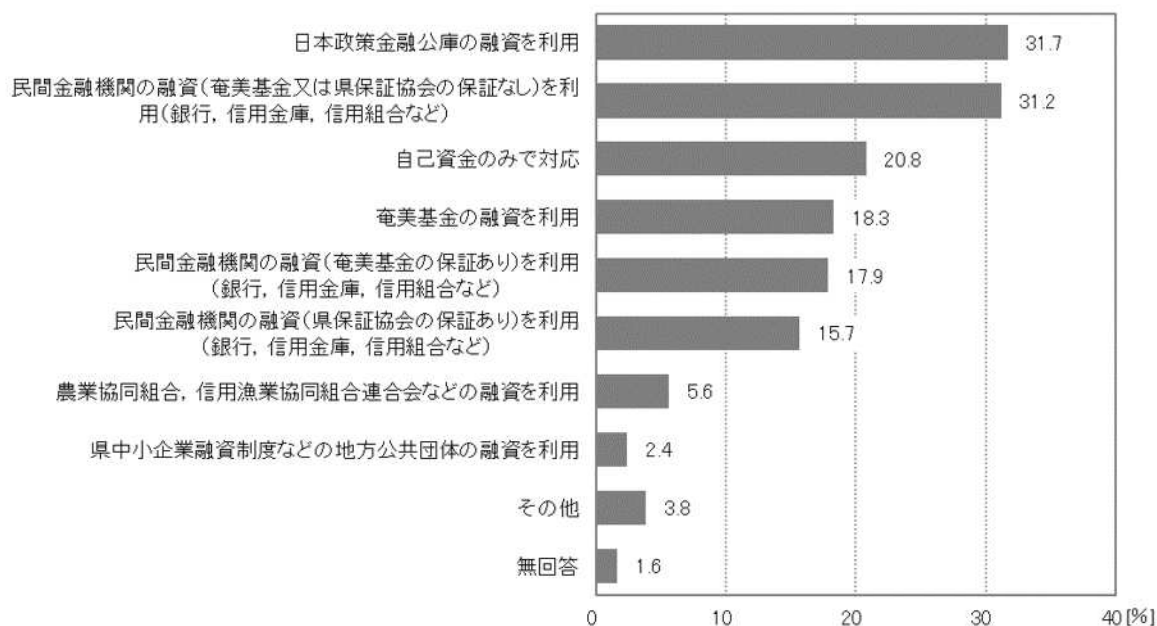


(2) 奄美群島振興開発基金（奄美基金）について

① 現在の主な資金調達方法

現在の主な資金調達方法については、「日本政策金融公庫の融資を利用」が31.7%で最も多く、次いで「民間金融機関の融資（奄美基金又は県保証協会の保証なし）を利用（銀行、信用金庫、信用組合など）」（31.2%）、「自己資金のみで対応」（20.8%）などとなっている。

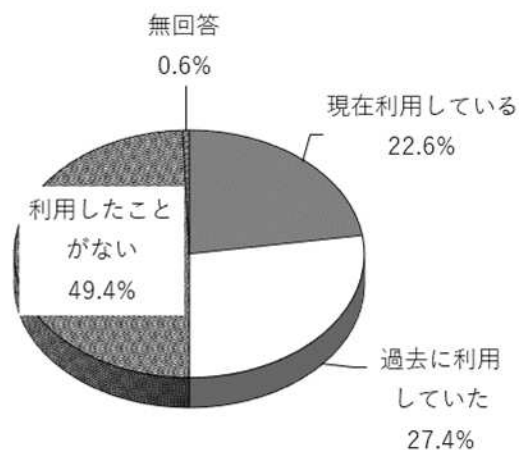
【現在の主な資金調達方法（N=504）】



② 奄美基金の利用の有無

奄美基金の利用の有無については、「利用したことがない」が49.4%で約5割を占め最も多く、次いで「過去に利用していた」（27.4%）、「現在利用している」（22.6%）となっている。

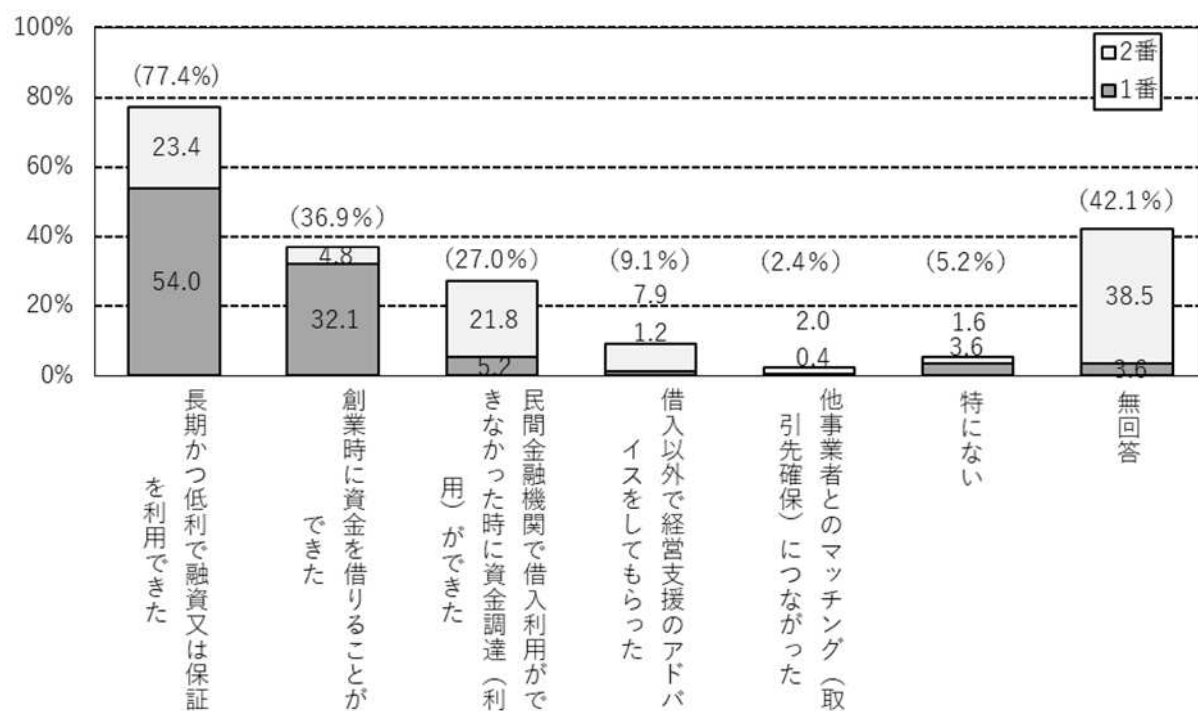
【奄美基金の利用の有無（N=504）】



③ 奄美基金を利用した目的又は動機

「奄美基金を現在利用している」又は「過去に利用していた」と回答した事業所の奄美基金を利用した目的又は動機については、「長期かつ低利で融資又は保証を利用できた」が最も多く、次いで「創業時に資金を借りることができた」、「民間金融機関で借入利用ができなかった時に資金調達（利用）ができた」などとなっている。

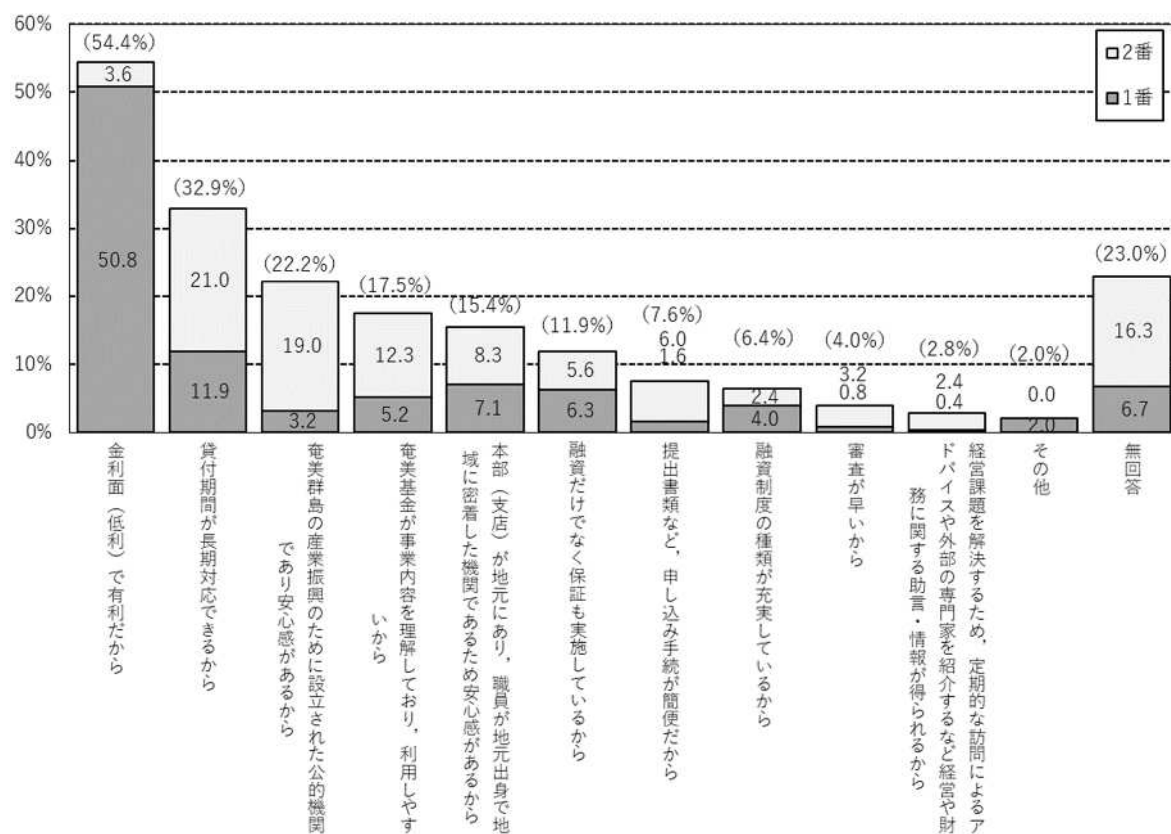
【奄美基金を利用した目的又は動機（N＝252）】



④ 奄美基金を利用する際の利点

「奄美基金を現在利用している」又は「過去に利用していた」と回答した事業所の奄美基金を利用する際の利点については、「金利面（低利）で有利だから」が最も多く、次いで「貸付期間が長期対応できるから」、「奄美群島の産業振興のために設立された公的機関であり安心感があるから」などとなっている。

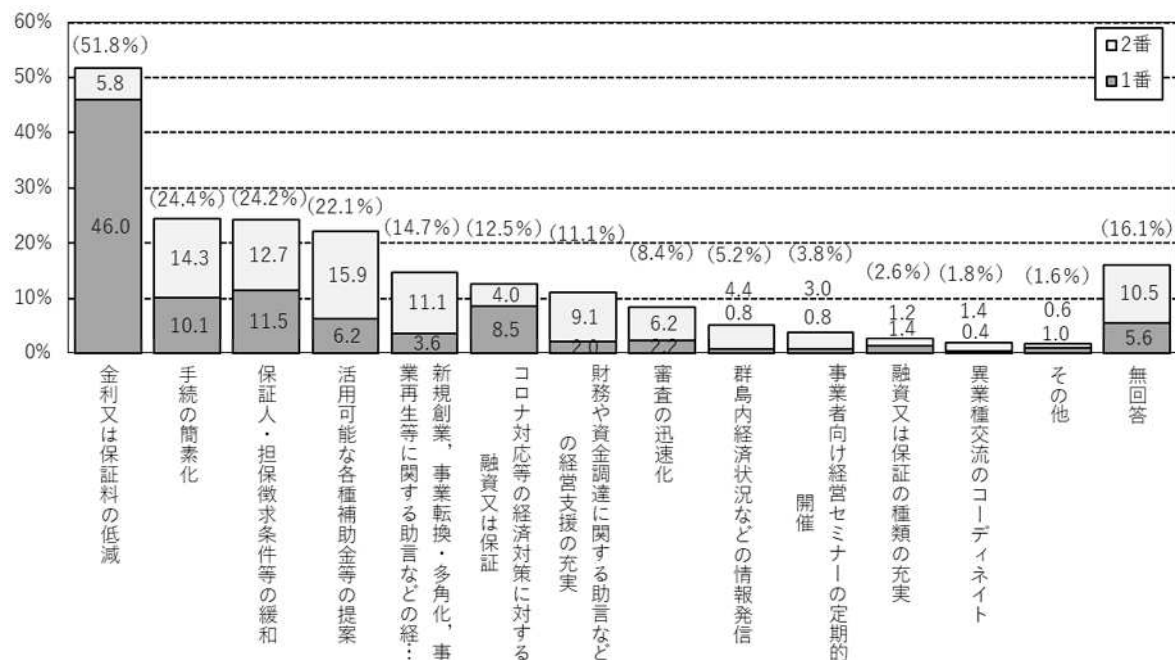
【奄美基金を利用する際の利点（N=252）】



⑤ 今後、奄美基金に期待すること

今後、奄美基金に期待することについては、「金利又は保証料の低減」が最も多く、次いで「手続の簡素化」、「保証人・担保徴求条件等の緩和」などとなっている。

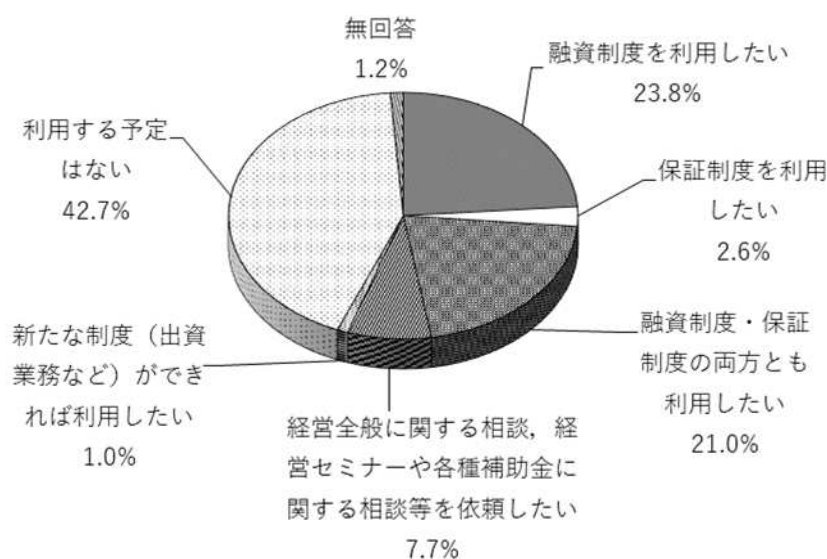
【今後、奄美基金に期待すること（N=504）】



⑥ 今後の奄美基金の利用意向

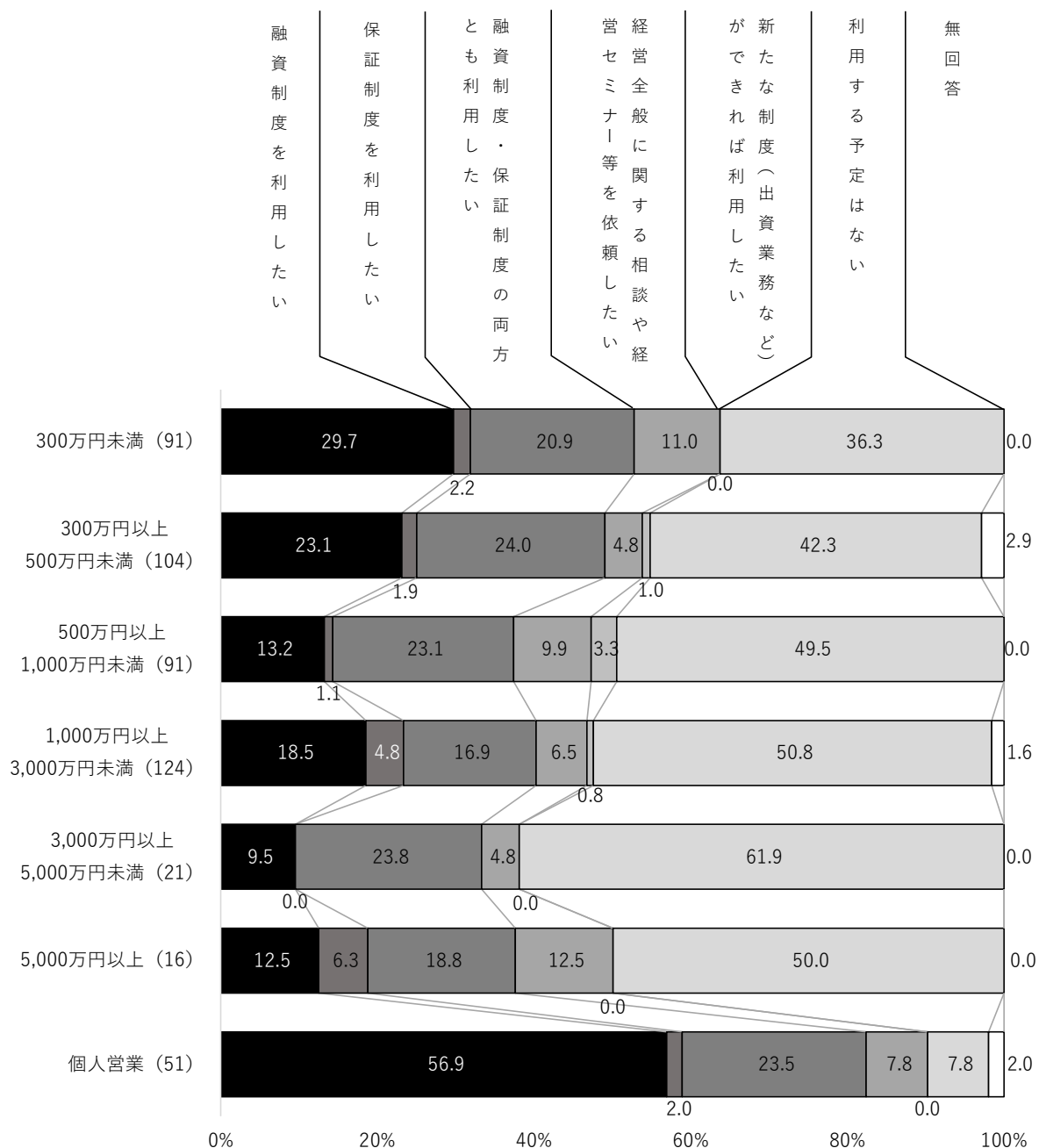
今後の奄美基金の利用意向については、「利用する予定はない」が 42.7%で最も多く、次いで「融資制度を利用したい」、「融資制度・保証制度の両方とも利用したい」などとなっている。

【今後の奄美基金の利用意向（N=504）】



資本金規模別に今後の奄美基金の利用意向についてみると、個人営業では「融資制度を利用したい」が56.9%で半数を超え最も多くなっている。その他の規模では「利用する予定はない」がそれぞれ最も多くなっている。

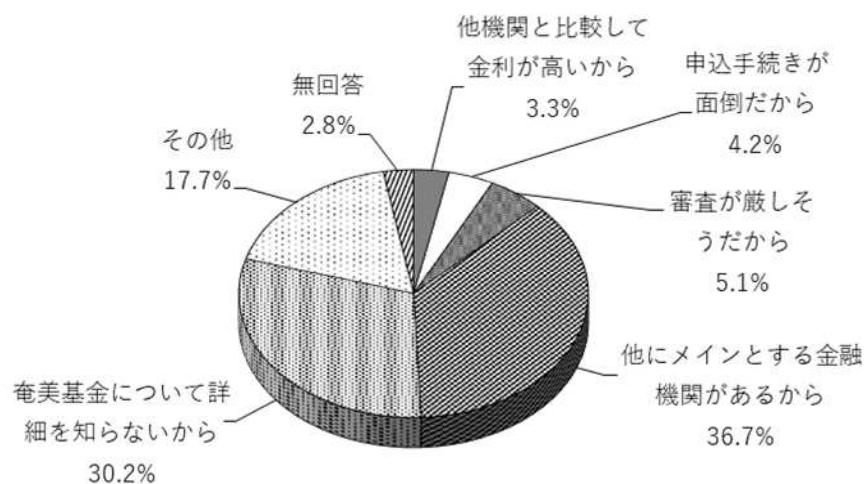
【資本金規模別にみた今後の奄美基金の利用意向】



⑦ 奄美基金を利用する予定がない理由

奄美基金を「利用する予定はない」と回答した事業所の回答理由については、「他にメインとする金融機関があるから」が 36.7%で最も多く、次いで「奄美基金について詳細を知らないから」(30.2%)、「審査が厳しそうだから」(5.1%) などとなっている。

【奄美基金を利用する予定がない理由 (N=215)】

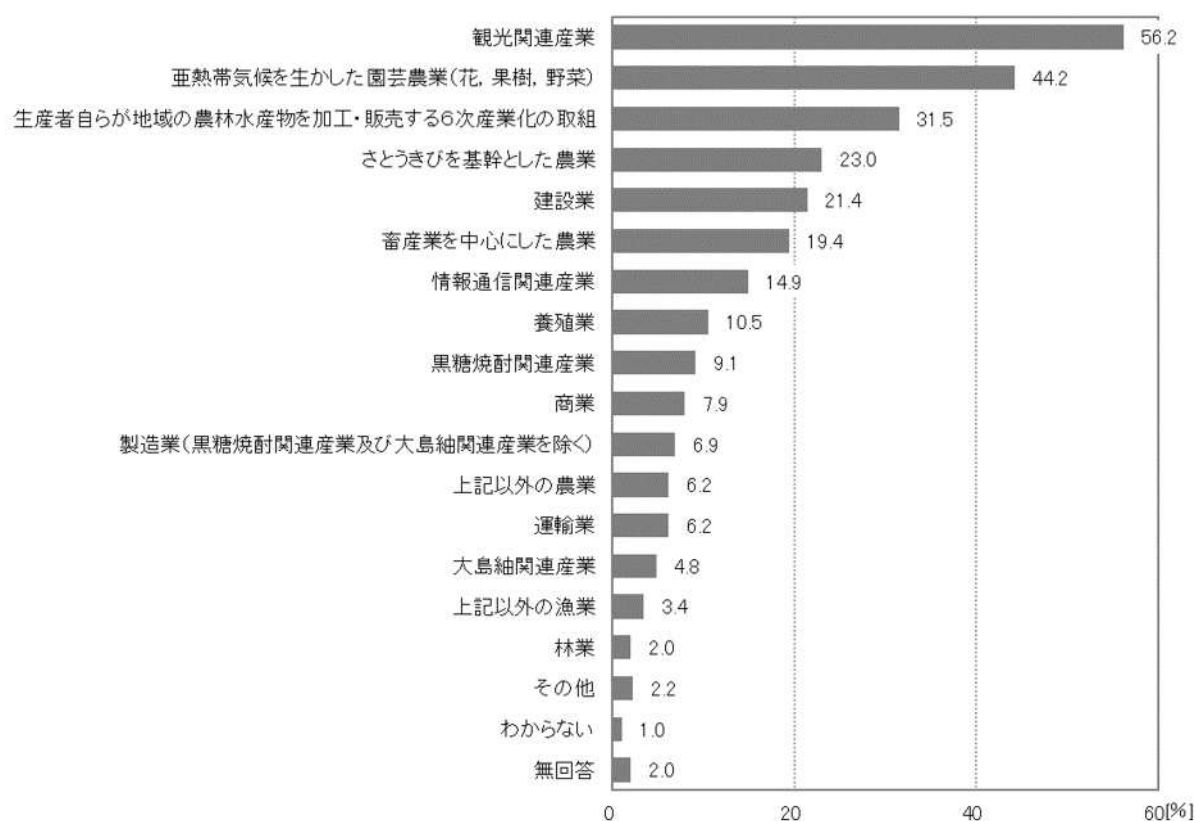


(3) 産業の振興について

① 今後の島の発展・振興のために力を入れるべき産業

今後の島の発展・振興のために力を入れるべき産業については、「観光関連産業」が56.2%で最も多く、次いで「亜熱帯気候を生かした園芸農業(花、果樹、野菜)」(44.2%)、「生産者自らが地域の農林水産物を加工・販売する6次産業化の取組」(31.5%)などとなっている。

【今後の島の発展・振興のために力を入れるべき産業 (N=504)】



② 今後の島の水産業の振興を図るために力を入れるべきこと

今後の島の水産業の振興を図るために力を入れるべきことについては、「後継者の育成」が31.0%で最も多く、次いで「島外へ出荷する際の輸送コストの削減」(25.2%)、「新規就業者の支援」(16.1%)などとなっている。

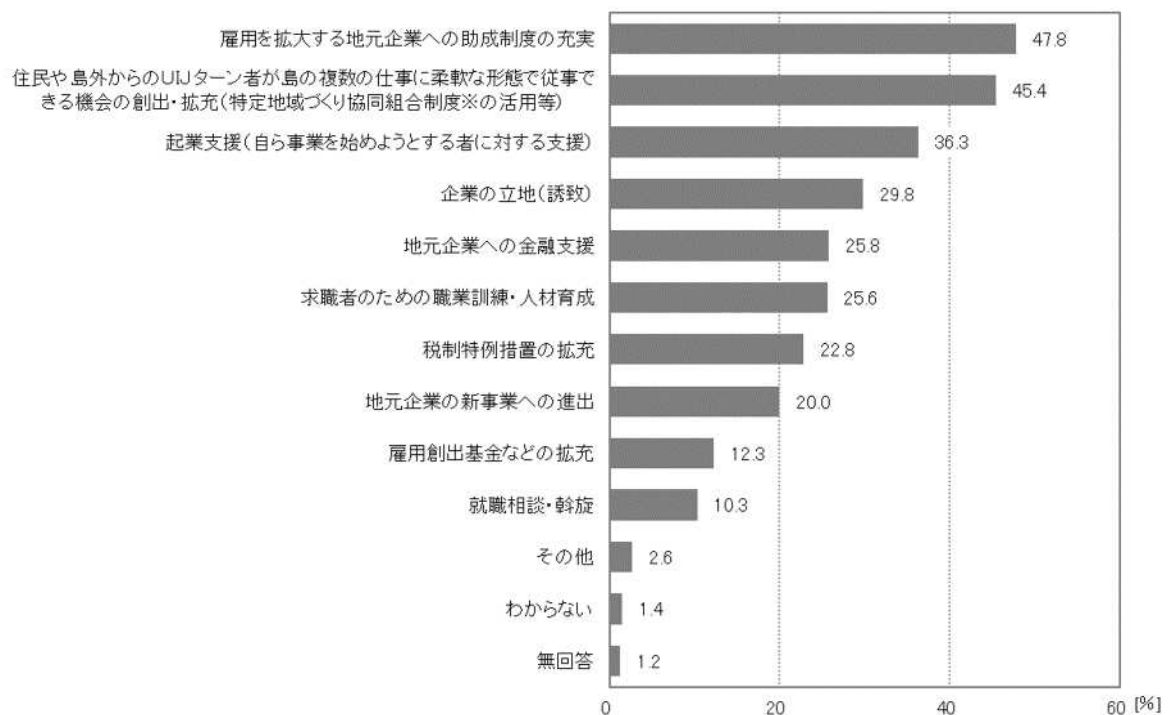
【今後の島の水産業の振興を図るために力を入れるべきこと (N=504)】



③ 今後の雇用の創出・確保を図るために力を入れるべきこと

今後の雇用の創出・確保を図るために力を入れるべきことについては、「雇用を拡大する地元企業への助成制度の充実」が47.8%で最も多く、次いで「住民や島外からのUIJターナーが島の複数の仕事に柔軟な形態で従事できる機会の創出・拡充(特定地域づくり協同組合制度※の活用等)」(45.4%)、「起業支援(自ら事業を始めようとする者に対する支援)」(36.3%)などとなっている。

【今後の雇用の創出・確保を図るために力を入れるべきこと (N=504)】



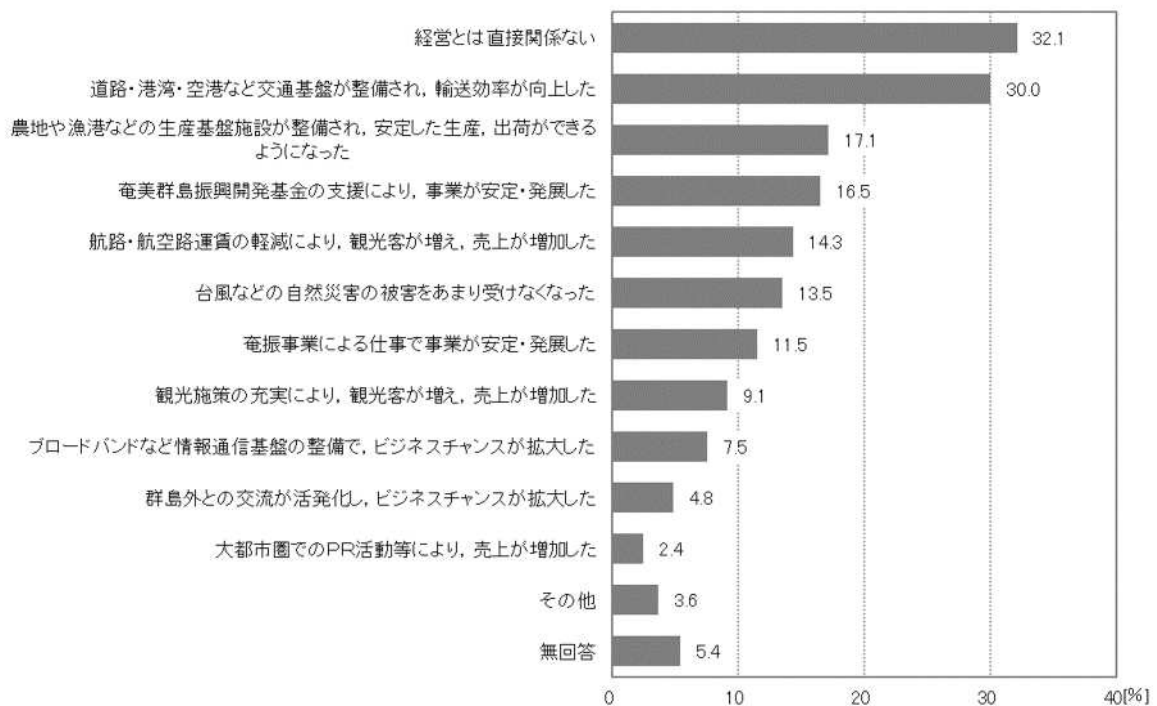
※特定地域づくり協同組合制度・・・人口急減地域において、中小企業等協同組合法に基づく事業協同組合が、特定地域づくり事業を行う場合について、都道府県知事が一定の要件を満たすものとして認定したときは、労働者派遣事業を許可ではなく、届出で実施することを可能とするとともに、組合運営費について財政支援を受けることができるようにするというもの。

(4) 奄美群島振興開発事業の評価と期待について

① 奄美群島振興開発事業実施に伴う経営面への効果

奄美群島振興開発事業実施に伴う経営面への効果については、「経営とは直接関係ない」が 32.1%で最も多く、次いで「道路・港湾・空港など交通基盤が整備され、輸送効率が向上した」(30.0%)、「農地や漁港などの生産基盤施設が整備され、安定した生産、出荷ができるようになった」(17.1%) などとなっている。

【奄美群島振興開発事業実施に伴う経営面の効果 (N=504)】



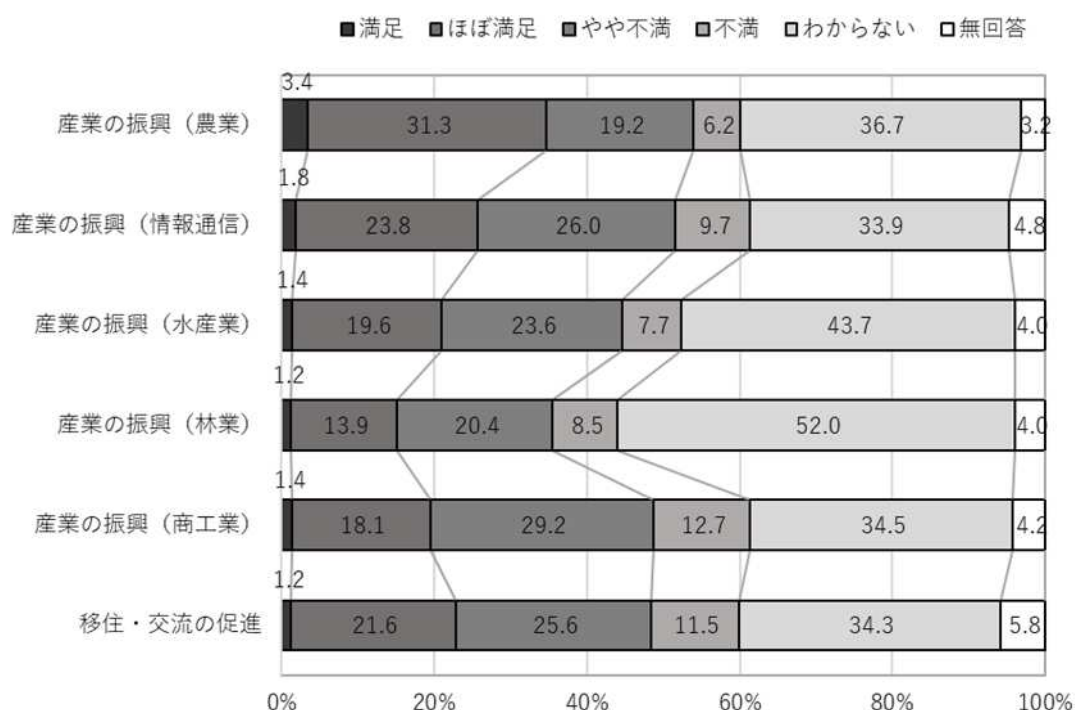
② 奄美群島振興開発事業における定住を促進するための方策についての評価

奄美群島振興開発事業における定住を促進するための方策については、どの方策についても「わからない」が最も多くなっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「産業の振興（農業）」が34.7%で最も多く、唯一『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合を上回っている。

一方、『不満』と回答した割合をみると、「産業の振興（商工業）」が41.9%で最も多く、次いで「移住・交流の促進」（37.1%）、「産業の振興（情報発信）」（35.7%）などとなっている。

【奄美群島振興開発事業における定住を促進するための方策についての評価（N=504）】



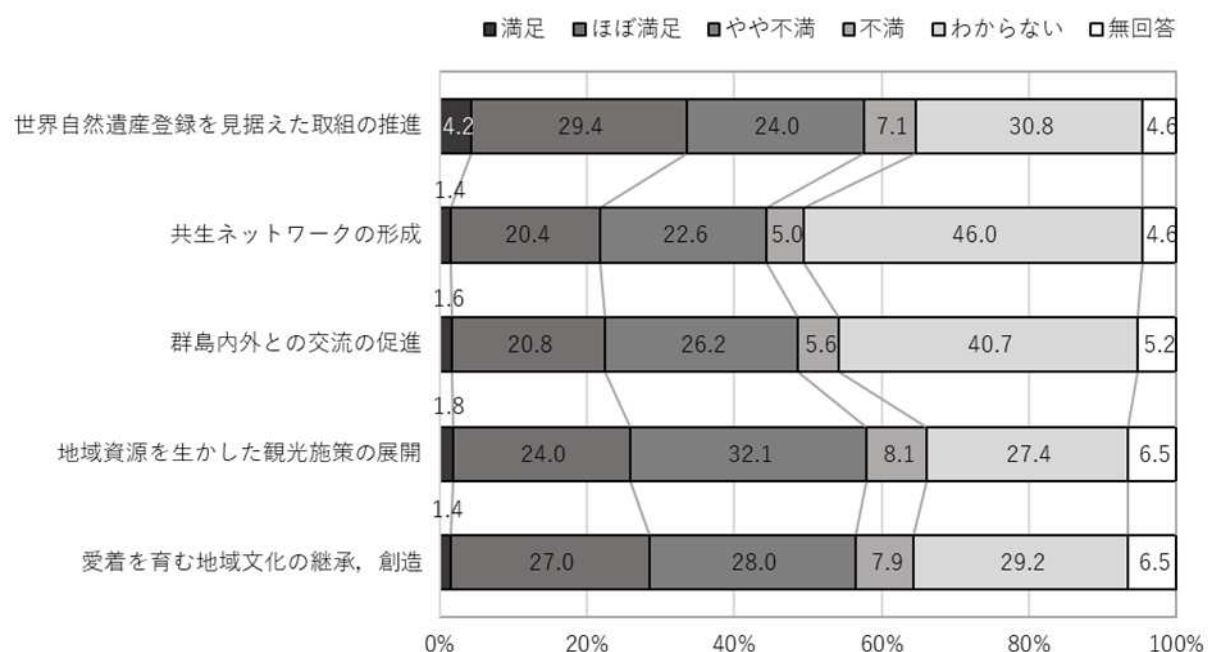
③ 奄美群島振興開発事業における世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型を促進するための方策についての評価

奄美群島振興開発事業における世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型を促進するための方策について、「地域資源を生かした観光施策の展開」以外は「わからない」が最も多くなっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「世界自然遺産登録を見据えた取組の推進」が 33.6%で最も多く、唯一『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合を上回っている。

一方、『不満』と回答した割合をみると、「地域資源を生かした観光施策の展開」が 40.2%で最も多く、次いで「愛着を育む地域文化の継承、創造」（35.9%）、「群島内外との交流の促進」（31.8%）などとなっている。

【奄美群島振興開発事業における世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型を促進するための方策についての評価（N=504）】

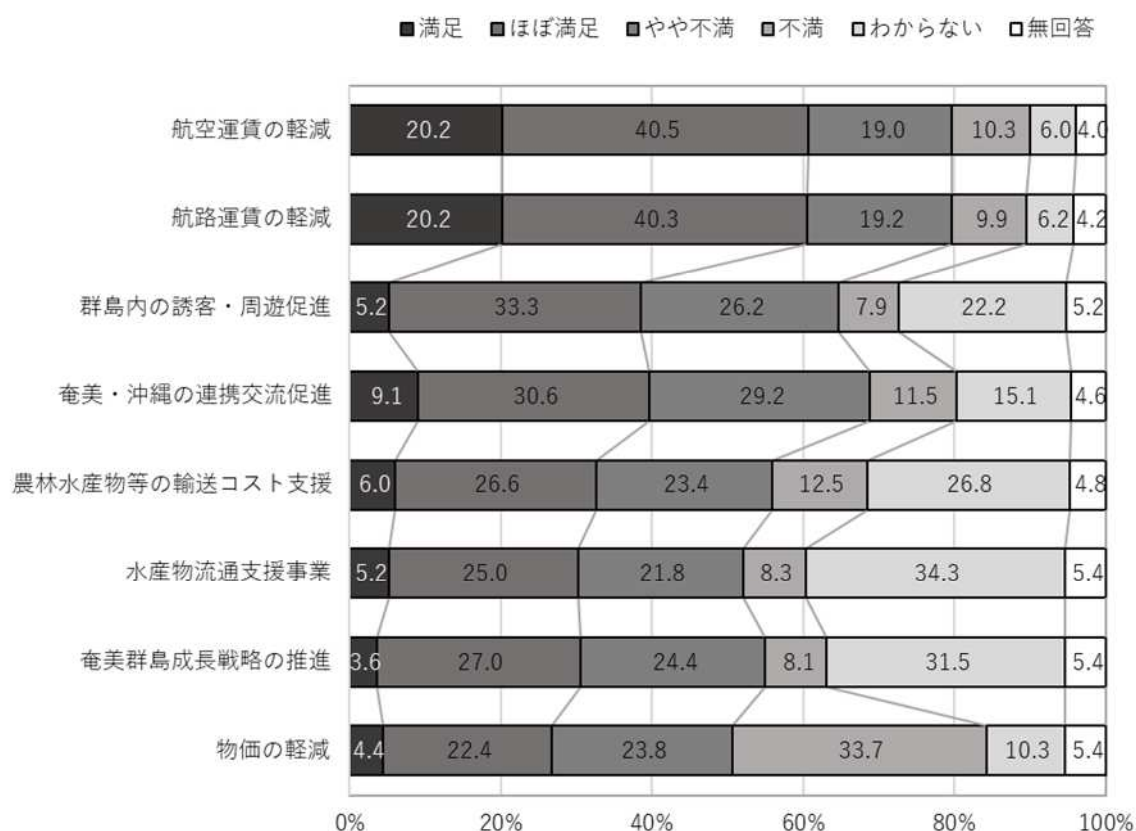


④ 奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その１）についての評価

奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その１）について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「航空運賃の軽減」が60.7%で最も多く、次いで「航路運賃の軽減」（60.5%）、「奄美・沖縄の連携交流促進」（39.7%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「物価の軽減」が57.5%で約6割を占め最も多く、次いで「奄美・沖縄の連携交流促進」（40.7%）、「農林水産物等の輸送コスト支援」（35.9%）などとなっており、これら3つの項目と「奄美群島成長戦略の推進」は『不満』が『満足』を上回っている。

【奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その１）についての評価（N=504）】



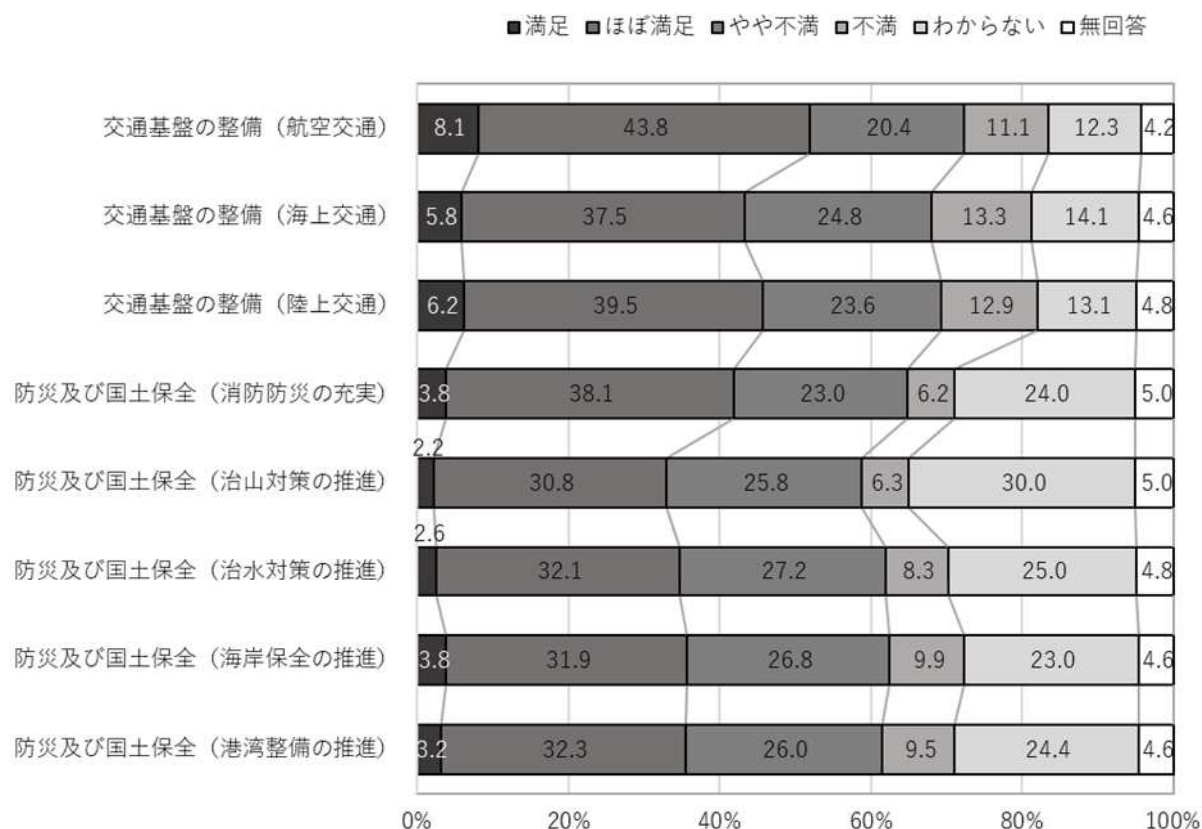
⑤ 奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その２）についての評価

奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その２）については、どの項目においても「ほぼ満足」が最多となっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「交通基盤の整備（航空交通）」が 51.9%で最も多く、次いで「交通基盤の整備（陸上交通）」（45.7%）、「交通基盤の整備（海上交通）」（43.3%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「交通基盤の整備（海上交通）」が 38.1%で最も多く、次いで「防災及び国土保全（海岸保全の推進）」（36.7%）、「交通基盤の整備（陸上交通）」（36.5%）などとなっている。

【奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その２）についての評価（N=504）】



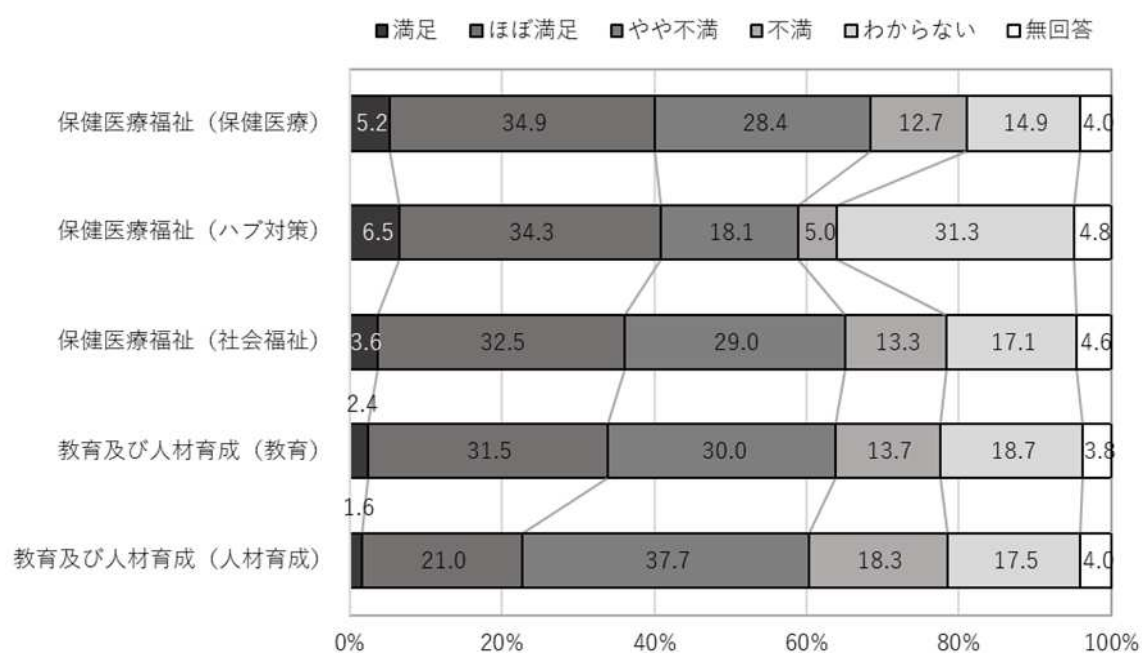
⑥ 奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その１）についての評価

奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その１）について、「教育及び人材育成（人材育成）」では「やや不満」、その他の項目では「ほぼ満足」がそれぞれ最も多くなっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「保健医療福祉（ハブ対策）」が40.8%で最も多く、次いで「保健医療福祉（保健医療）」（40.1%）、「保健医療福祉（社会福祉）」（36.1%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「教育及び人材育成（人材育成）」が56.0%で最も多く、次いで「教育及び人材育成（教育）」（43.7%）、「保健医療福祉（保健医療）」（41.1%）などとなっており、これら３項目は『不満』が『満足』を上回っている。

【奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その１）についての評価（N＝504）】

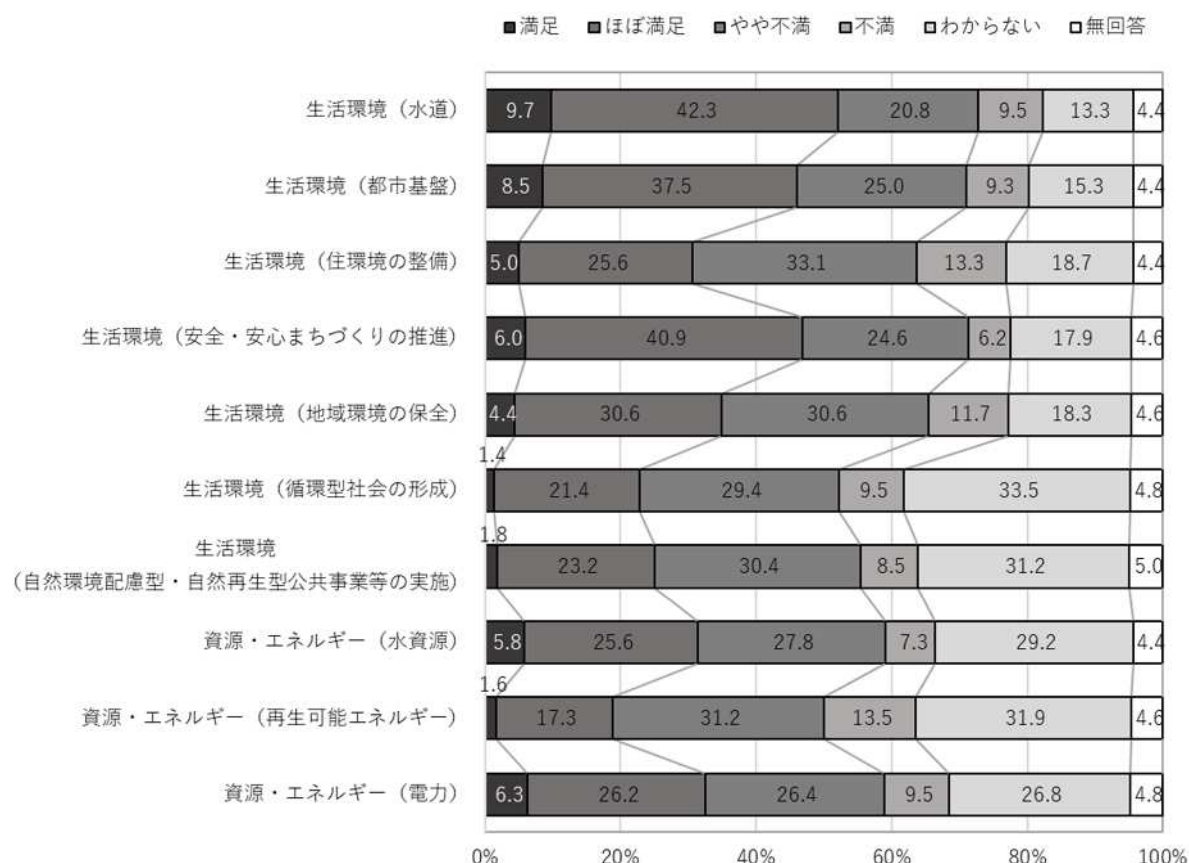


⑦ 奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その２）についての評価

奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その２）について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「生活環境（水道）」が52.0%で最も多く、次いで「生活環境（安全・安心まちづくりの推進）」（46.9%）、「生活環境（都市基盤）」（46.0%）などとなっており、これら３項目のみ『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合を上回っている。

一方、『不満』と回答した割合をみると、「生活環境（住環境の整備）」が46.4%で最も多く、次いで「資源・エネルギー（再生可能エネルギー）」（44.7%）、「生活環境（地域環境の保全）」（42.3%）などとなっている。

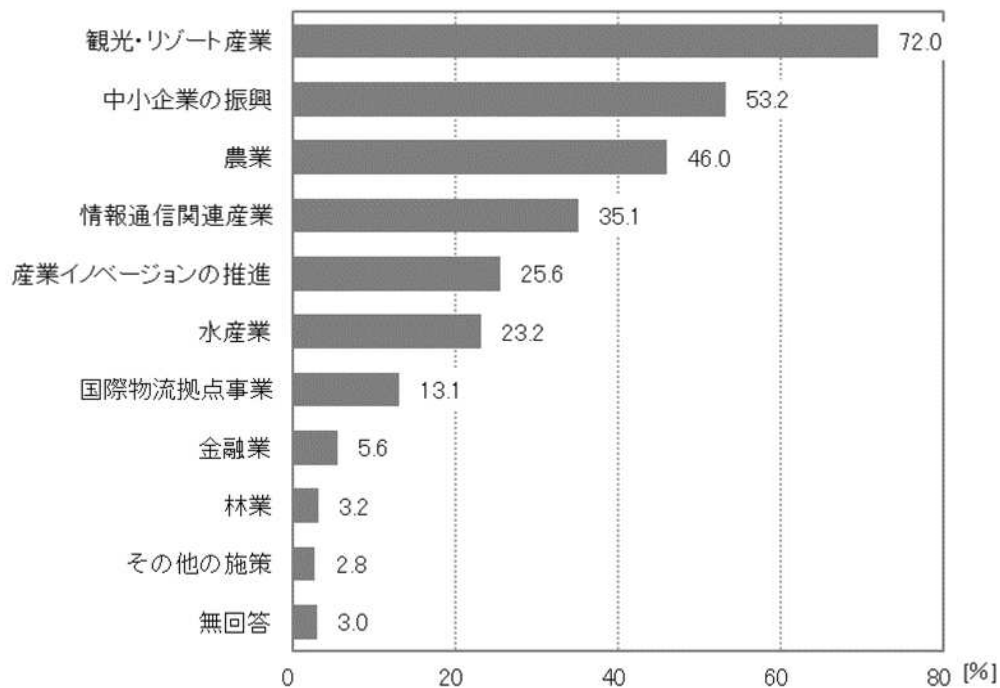
【奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その２）についての評価（N=504）】



⑧ 沖縄県の振興施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策

沖縄県の振興施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策については、「観光・リゾート産業」が72.0%で7割を超え最も多く、次いで「中小企業の振興」(53.2%)、「農業」(46.0%)、「情報通信関連産業」(35.1%)などとなっている。

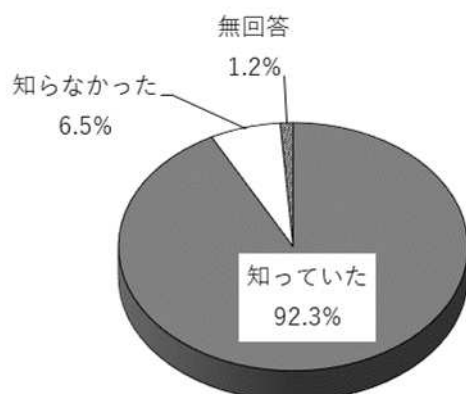
【沖縄県の振興施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策 (N=504)】



⑨ 世界自然遺産の4地域が生物多様性を保全していく上で重要な地域であることについての認知度

世界自然遺産の4地域が生物多様性を保全していく上で重要な地域であることについての認知度については、「知っていた」が92.3%で9割を超え、「知らなかった」は6.5%となっている。

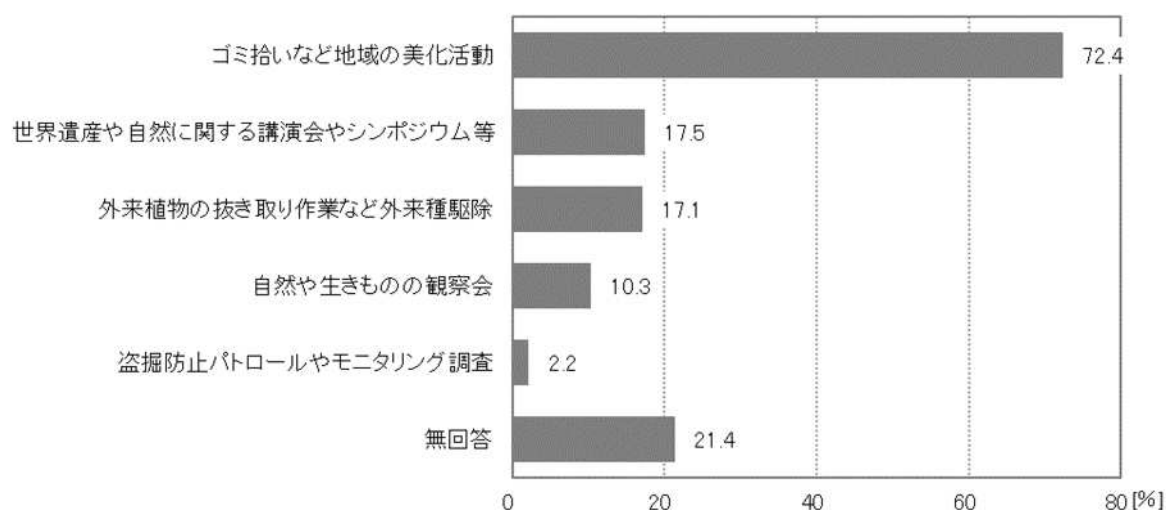
【世界自然遺産の4地域が生物多様性を保全していく上で重要な地域であることについての認知度 (N=504)】



⑩ 過去1年間に参加したことがある活動や講演会など

過去1年間に参加したことがある活動や講演会などについては、「ゴミ拾いなど地域の美化活動」が72.4%と突出して最も多く、次いで「世界遺産や自然に関する講演会やシンポジウム等」(17.5%)、「外来植物の抜き取り作業など外来種駆除」(17.1%)などとなっている。

【過去1年間に参加したことがある活動や講演会など (N=504)】



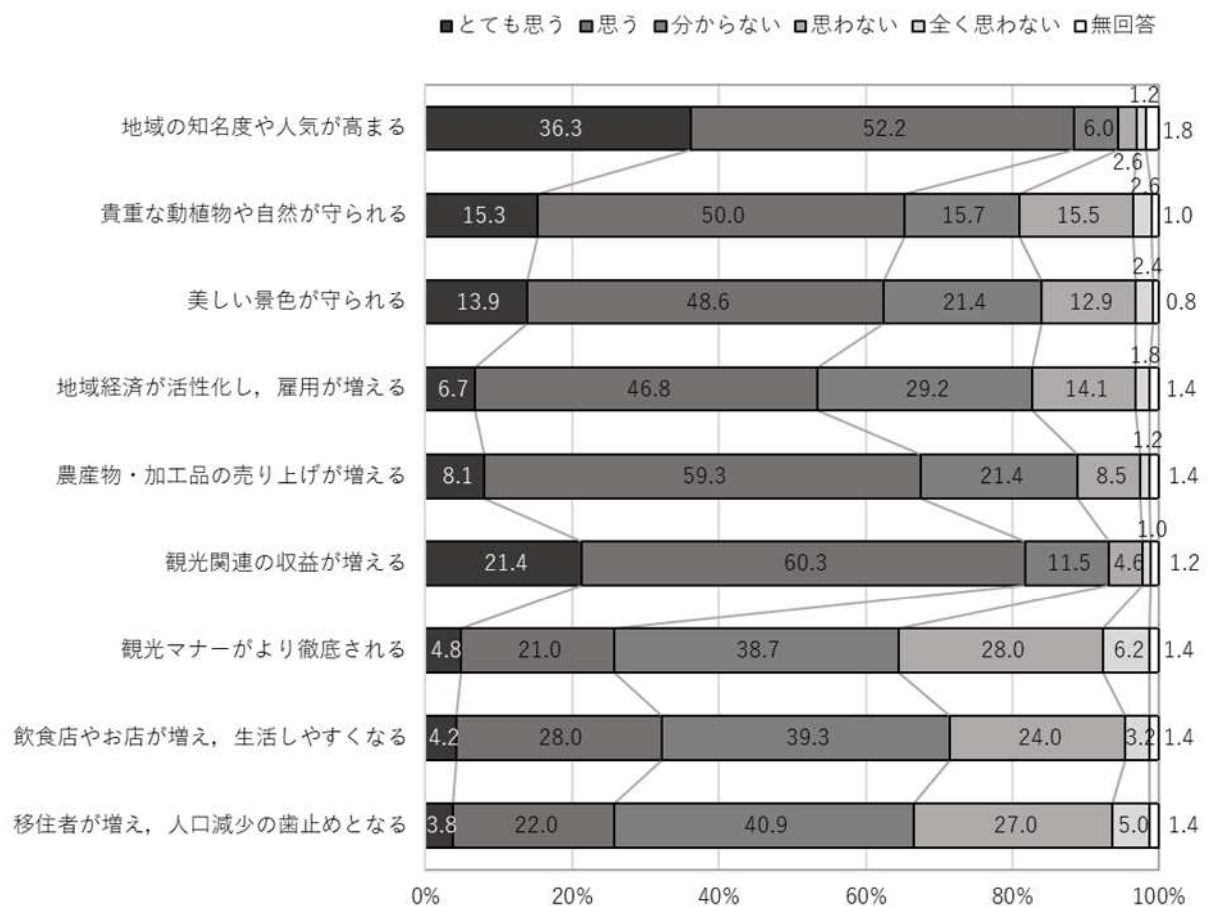
⑪ 奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったことで期待できることについての考え

奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったことで期待できることについて、『思う』（「とても思う」と「思う」の合計）と回答した割合をみると、「地域の知名度や人気が高まる」が88.5%で最も多く、次いで「観光関連の収益が増える」（81.7%）、「農産物・加工品の売り上げが増える」（67.4%）などとなっている。

また、「貴重な動植物や自然が守られる」、「美しい景色が守られる」、「地域経済が活性化し、雇用が増える」についても『思う』が半数を超えている。

その一方で、「観光マナーがより徹底される」、「飲食店やお店が増え、生活しやすくなる」、「移住者が増え、人口減少の歯止めとなる」については『思う』が4割を下回り、「分からない」が最多となっている。

【奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったことで期待できることについての考え（N=504）】

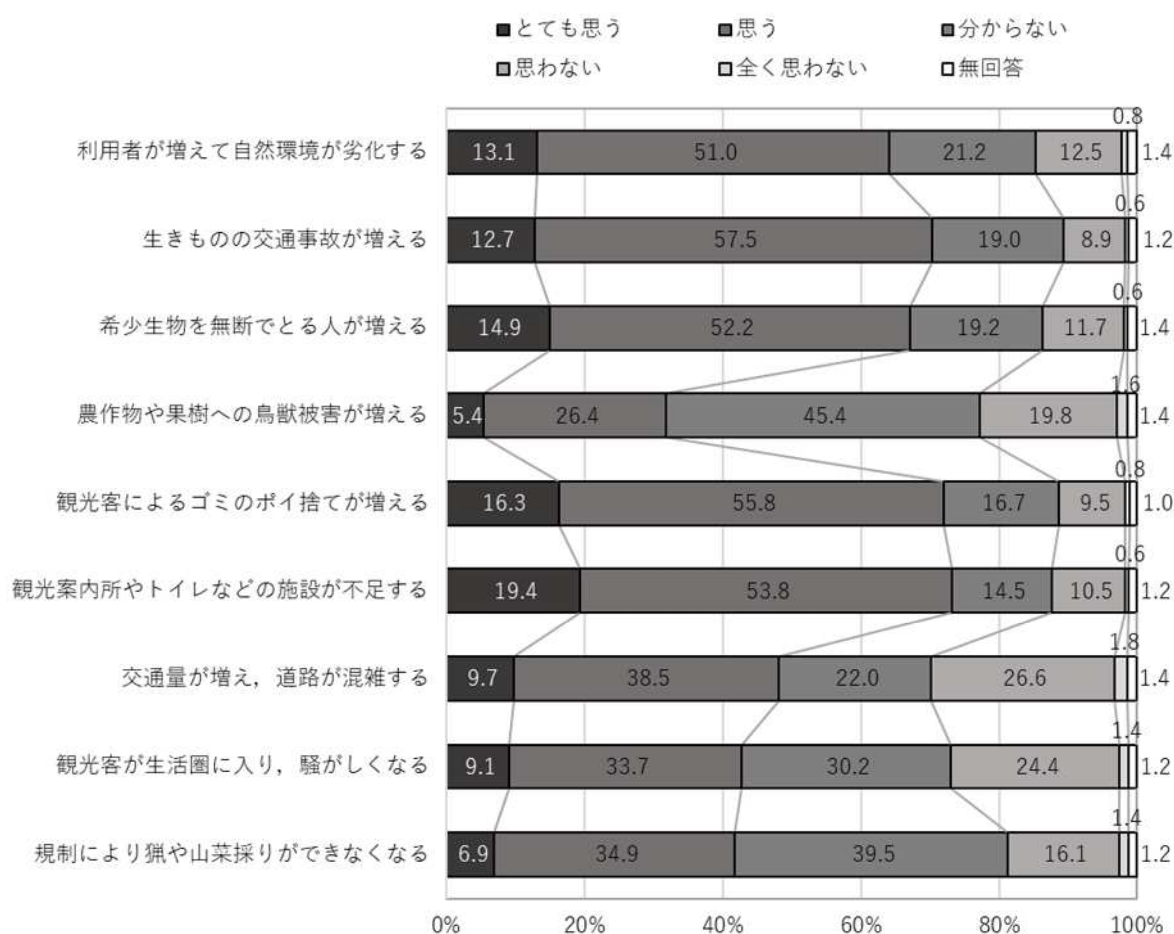


⑫ 奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったために懸念又は心配することについての考え

奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったために懸念又は心配することについて、『思う』（「とても思う」と「思う」の合計）と回答した割合をみると、「観光案内所やトイレなどの施設が不足する」が73.2%で最も多く、次いで「観光客によるゴミのポイ捨てが増える」（72.1%）、「生きものの交通事故が増える」（70.2%）、「希少生物を無断でとる人が増える」（67.1%）、「利用が増えて自然環境が劣化する」（64.1%）などとなっている。

その一方で、「農作物や果樹への鳥獣被害が増える」、「規制により猟や山菜採りができなくなる」については『思う』が半数を下回り、「分からない」が最多となっている。

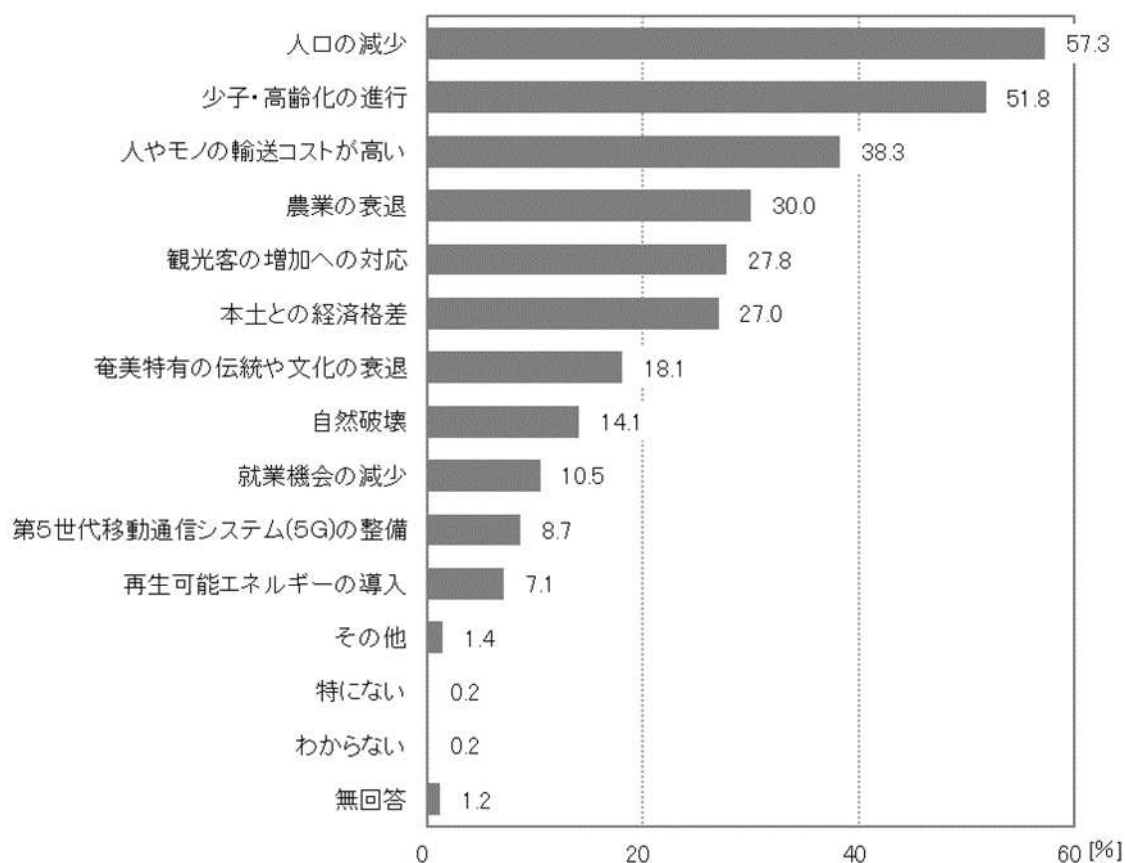
【奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったために懸念又は心配することについての考え（N=504）】



⑬ 奄美群島の今後の問題点

奄美群島の今後の問題点については、「人口の減少」が57.3%で最も多く、次いで「少子・高齢化の進行」(51.8%)、「人やモノの輸送コストが高い」(38.3%)、「農業の衰退」(30.0%) などとなっている。

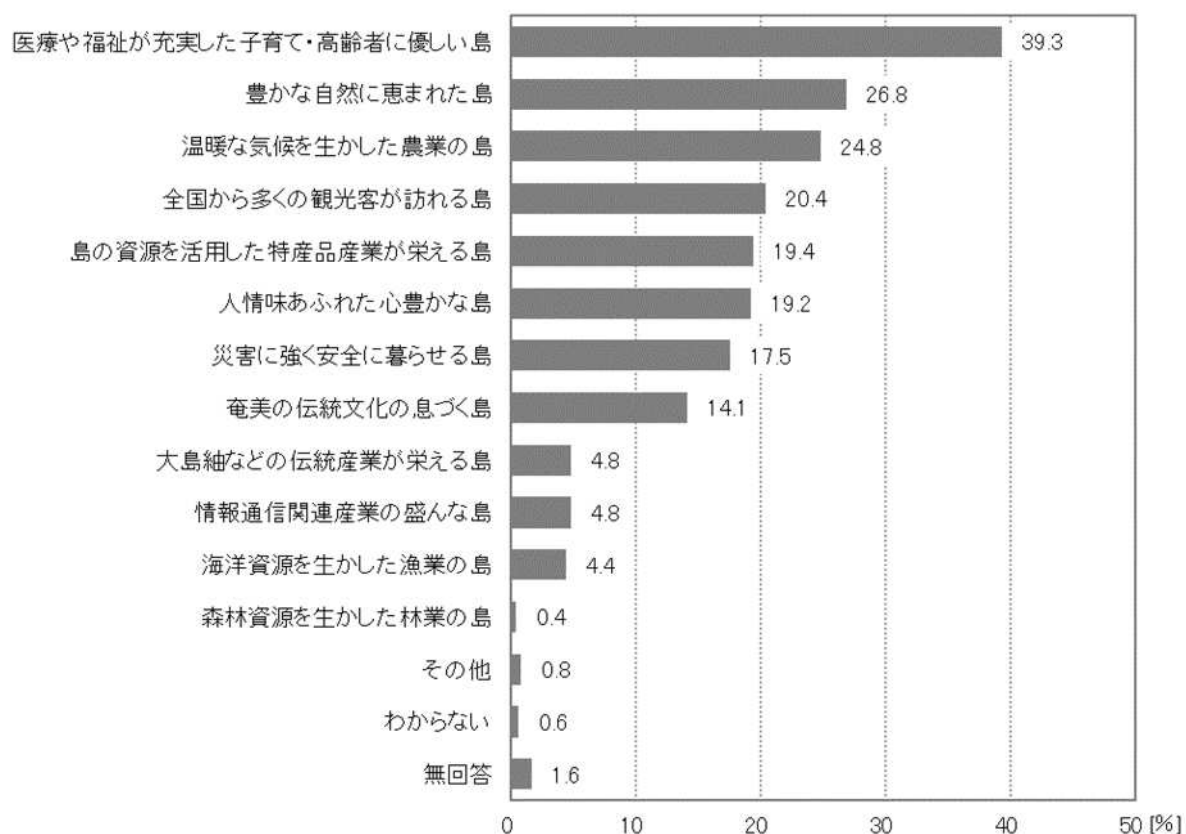
【奄美群島の今後の問題点 (N=504)】



⑭ 奄美群島の将来の姿の希望

奄美群島の将来の姿の希望については、「医療や福祉が充実した子育て・高齢者に優しい島」が39.3%で最も多く、次いで「豊かな自然に恵まれた島」(26.8%)、「温暖な気候を生かした農業の島」(24.8%)、「全国から多くの観光客が訪れる島」(20.4%)などとなっている。

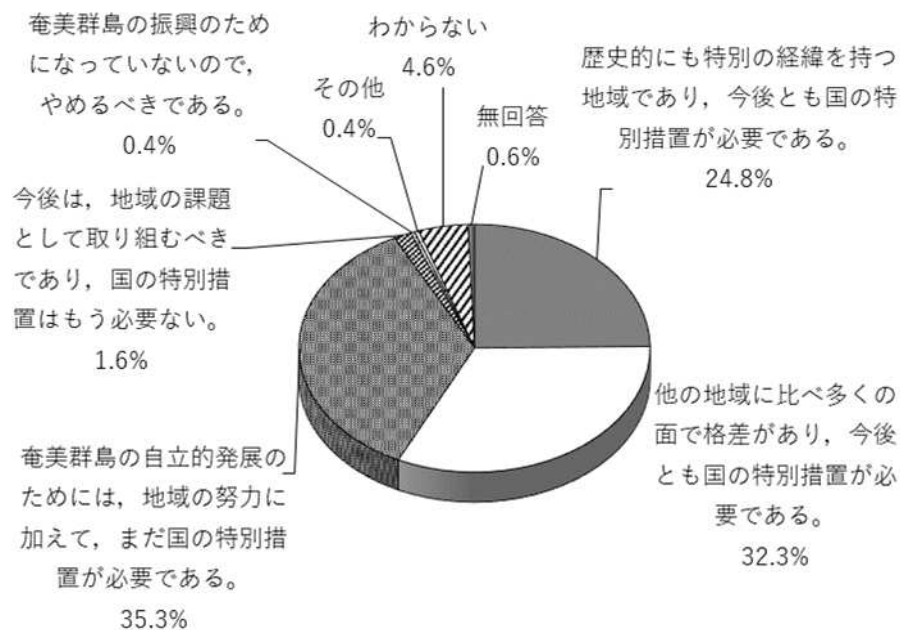
【奄美群島の将来の姿の希望 (N=504)】



⑮ 奄美群島振興開発特別措置法についての考え

奄美群島振興開発特別措置法については、「奄美群島の自立的発展のためには、地域の努力に加えて、まだ国の特別措置が必要である」が 35.3%で最も多く、次いで「他の地域に比べ多くの面で格差があり、今後とも国の特別措置が必要である」(32.3%)、「歴史的にも特別の経緯を持つ地域であり、今後とも国の特別措置が必要である」(24.8%) などとなっており、上記3項目を合計した『国の特別措置が必要である』と回答した割合は 92.4%と 9 割を超えている。

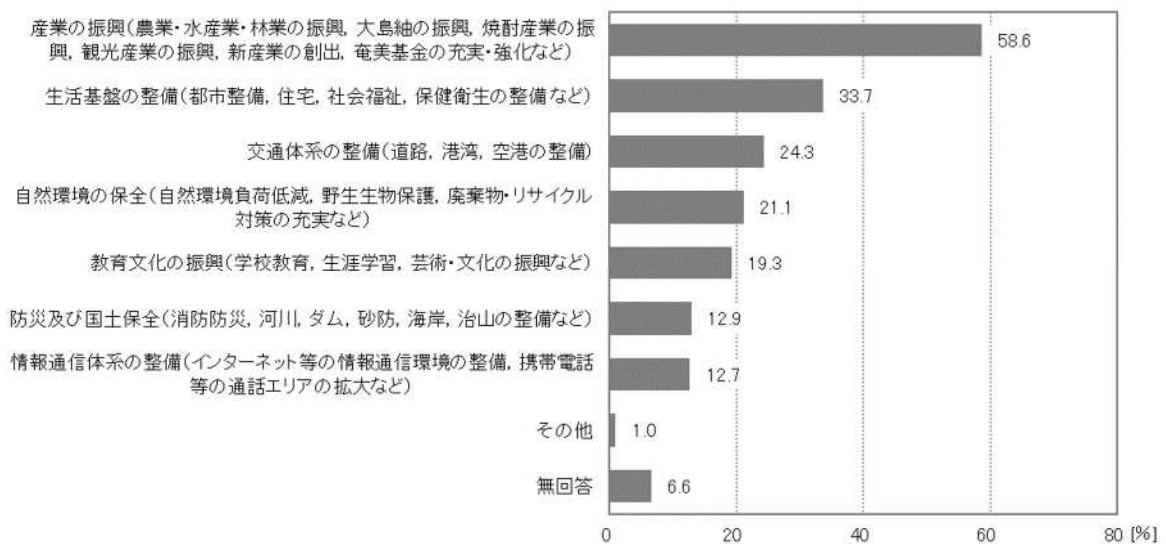
【奄美群島振興開発特別措置法についての考え (N=504)】



⑩ 今後の事業展開を図る上で、さらに充実させて欲しい奄美群島振興開発事業の分野

今後の事業展開を図る上で、さらに充実させて欲しい奄美群島振興開発事業の分野については、「産業の振興（農業・水産業・林業の振興，大島紬の振興，焼酎産業の振興，観光産業の振興，新産業の創出，奄美基金の充実・強化など）」が58.6%で最も多く、次いで「生活基盤の整備（都市整備，住宅，社会福祉，保健衛生の整備など）」（33.7%）、「交通体系の整備（道路，港湾，空港の整備）」（24.3%）、「自然環境の保全（自然環境負荷低減，野生生物保護，廃棄物・リサイクル対策の充実など）」（21.1%）などとなっている。

【今後の事業展開を図る上で、さらに充実させて欲しい奄美群島振興開発事業の分野（N＝504）】

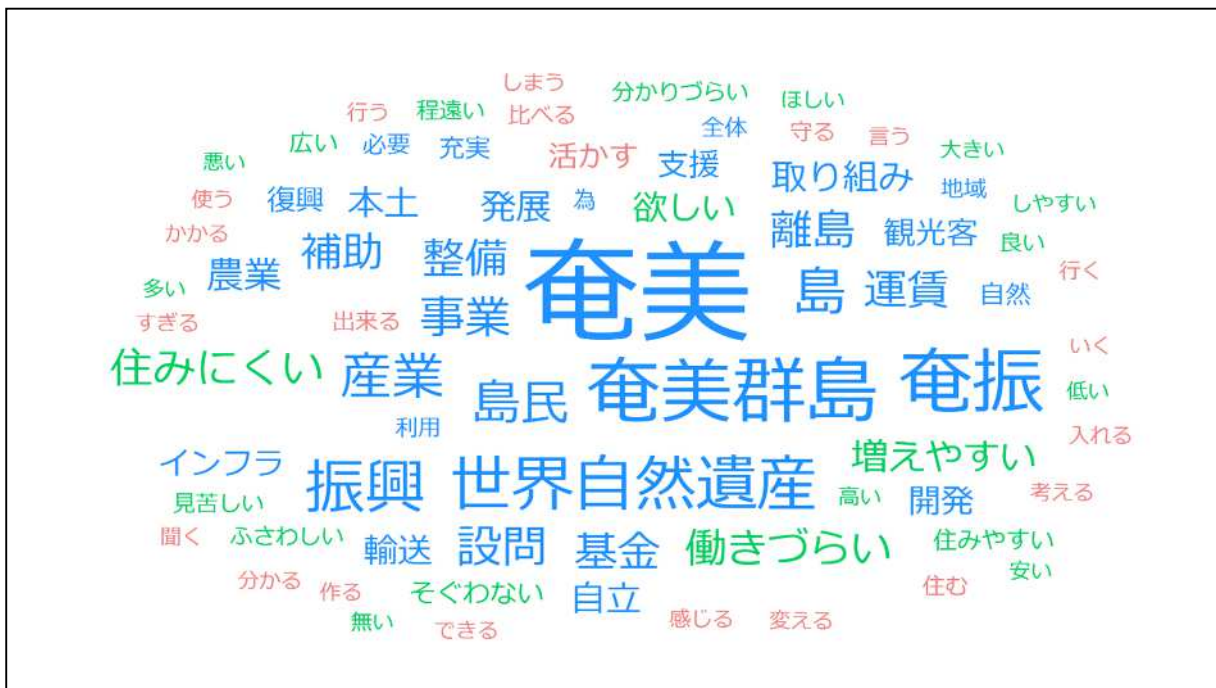


⑪ 奄美群島の振興開発についての意見・提言

奄美群島の振興開発についての意見・提言として、以下のことなどが挙げられている。

【奄美群島の振興開発についての意見・提言】

○テキストマイニングによる分析結果（ワードクラウド）



注1：ワードクラウドは、スコアが高い言葉を選び出し、その値に応じた大きさで図示したもの。名詞は青色、動詞は赤色、形容詞は緑色。

注2：スコアとは文章の中でどれだけ特徴的かを点数化したもの。通常は単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、「言う」や「思う」等のような種類の文章にも現れる単語はスコアが低めになる。

ツール：ユーザーローカル テキストマイニングツール (<http://textmining.userlocal.jp/>)

○具体的な意見・提言

- ・農道の整備が全くされていない。天城町の農道はデコボコである。生活排水溝を要望しているが全くなされない。天城町西阿木名地区を見て欲しい。情報通信についても、天城町は光ファイバーが通っていない集落がある。ガソリン代等の物価は引き下げているのか分からない。必ず奄美振興事業で改善して欲しい（農業）。
- ・国の自給率アップの為に、奄美の耕作放棄地を減少させる施策を打ち出して欲しい。一次産業に重点を置いた振興が必要だと思う（農業）。
- ・2年前に開発基金を利用させてもらっています。牛舎を建設するために更に資金が必要なのですが、基金への返済が残っている場合は追加支援は受けられないのでしょうか。息子が鹿児島での4年間の農業畜産研修を終えて令和5年4月に奄美に帰り畜産をすることになっています。1からのスタートになるので資金面での不安があります。島の農業のために今後頑張っていく若者のために支援をして欲しいです。（農業）
- ・畜産部門では、徳之島牛として肉用牛を出荷（肥育まで）することに、よりモチベーションの向上が必要だと思います。園芸農家部門では、ビニールハウスを利用した亜熱帯果実の販売ルート確保並びにハウス建設費用の補助が必要だと思います（農業）。
- ・物価（ガソリンを含む）が上がってきている。離島は普段から高いので、そこに補助をして欲しい（農業）。
- ・シャンパンタワーのようなもので、経済は良くならないと思う。日本人がバブルの頃海外へ行きアレコレした様に、今後はインバウンドを進める日本に海外から人がいっぱい来て日本を駄目にし、日本人は物価高で困っているので海外の代わりに奄美などに行き、奄美を駄目にする。この図式は昔から何も変わらない。遅かれ早かれ詰んでいくと思う（農業）。

○具体的な意見・提言（続き）

- ・奄美群島、瀬戸内を中心としたハブ港化。JAの肥料工場か飼料工場を誘致して雇用先を作る。海外のタンカー船を受け入れて安く穀類を入れる。奄振法の中に防衛力強化を入れ、瀬戸内港へ海上自衛隊を配備する。ガントリークレーンの配備（農業）。
- ・高齢化が進んでいるので、若手の育成に力を入れて欲しい。目で見る事が何より大切です。研修の場を増やして、1次産業をもっともっと大事に考えて下さい。味の郷「道の駅」を見に行ってみてください。商品を作る人がいないから品物が無い状態です。農業の事も、もっと考えて下さい。島ならではの子、孫への繋がりを大切にしたい。食を大切に、農林水産業を育てて欲しい。海から見える廃船が見苦しい。見た目がとても悪い。廃船の撤去を早急にして欲しい（農業）。
- ・産業の復興について、予算をもっとつけるべき。こぎつけの大型公共事業はもう少し考えるべき。真面目に考えればわかる事だと思います（農業）。
- ・社会資本整備という理念から言えば、与論島の港湾は抜港率がとても高く、生産物の出荷輸送、生活物資、観光客の入域等に影響大です。他島と比べて不利性が高い。風向き、海流シミュレーション調査を十分に行い、新たな港を作る必要がある。与論の農業人は他の島の農業人と比べて不利だと思う。生産物を出荷出来なければ輸送補助の恩恵に欲する事も出来ない。与論も共同組海運の寄港再開が必要（定期船でも抜港する事あり）だと思う。貨物、朝の共同組は抜港せず、生産物を輸送している。与論島は特例として共同組海運への公的燃料補助も必要だと思う。過去に共同組海運は与論島寄港していた。しかし、輸送量が少ない時期があり、赤字経営になり、以後沖永良部島までの寄港となっている。社会資本整備という理念から見ると与論島は未だこの基本的な整備すら（港湾）不十分なので、島民に不便を強いられている現状を直視して下さい（農業）。
- ・送料のコストダウン。島内では買えない資材などネット購入していますが、離島運賃などがプラスされ、時に商品よりも運賃が高くなってしまいます。こういった場合に運賃などの助成があると助かります。船便欠航により農産物が発送できずにいる現状の改善をして欲しい（農業）。
- ・奄美群島と本土の往来が気軽に出来る様に今後も支援して欲しい（農業）。
- ・農業各分野の耕畜連携の強化を図り、かつ畜産やサトウキビの産業を利用したバイオマス発電の導入（農業）。
- ・奄美群島の自立とはどんな状況の事なのか。運賃等、本土とのコスト差を考えると奄振無しでの自立は想像出来ない。私もどっぴりな依存症なのでしょうか。奄美に限らず、地域間の格差は国がフォローするしかないと思います。地方のローカル線等の問題と同じで、奄美の抱える課題も国が守るべきだと思います。自国立ての通貨を発行出来る日本に財政破綻は無いと政調会長が言っていました（農業）。
- ・奄美群島振興開発事業は、資金の無い農業経営者に借入させた後は経営支援のアドバイスをしない農協金融と同じではないですか？（農業）
- ・これまでの奄振の取り組みを小・中・高校生が学べる機会を作って欲しい。奄美に残りたいと思っている若者が流出しない様に高等教育機関の充実を検討して欲しい（農業）。
- ・奄振事業はとても重要です。歴史的価値を次世代へ継承しつつ、グローバルな感覚を磨きながら発展していく為にも、知恵を出し合い努力していく必要があると思います（農業）。
- ・他の地域との格差が広がらないようにして欲しい。通信を発達させる事で様々な企業の進出を促し、人口減少を止められると良いと思う（農業）。
- ・個人事業者のサポートも必要ですが、まずは本土（都会）に比べて足りないインフラの整備、津波・台風対策といった自然災害に備えた社会基盤をしっかりと支えて欲しい。住み良い環境にすると、自ずと人が集まるので経済が活性化される。住み良い環境づくりに公的資金を投入し、力を注いでほしい。田舎特有の道路（狭さやS字状等）、街灯の不足も改善して欲しい。田舎暮らしを満喫するためにはこれらの整備が必要です。住み良い島々をつくる環境整備が大事だと思う（農業）。
- ・もっと周知をしないと有難みが分からない人が多いと思います（当たり前になってしまっている）（大島紬関連産業）。
- ・離島のハンデを出来るだけ軽減し、その上で奄美の良さを活かす（発展させる）振興であって欲しいと感じます（水産業）。

○具体的な意見・提言（続き）

- ・奄美自立に向け、道路などインフラ整備が進み稼ぐ方たちは潤った。次は稼ぐ仕組み（ノウハウや、経営支援）が実になる迄やらないとその場限りの支援ではなかなか成功、自立には結びつかないと思う（製造業（黒糖焼酎関連産業及び大島紬関連産業を除く））。
- ・①沖縄との産業、観光の連携を強化する。②沖縄行の交通費の低減（特に航空運賃）。③「西南地域活性化センター」との事業連携。④ベンチャー企業が集積できるような支援（リモートワークの流れを活用する）。⑤「ヘルシーリゾートアイランド」の推進。⑥自動運転等、高齢者・障害者に優しい島にする（ユニバーサルツーリズムの展開）（情報通信関連産業）。
- ・島外者における秩序の無いと土地開発などが無い様、島の自然を維持できる様に考えて欲しい（情報通信関連産業）。
- ・①経済格差…産業振興が中心となると思うが、観光業においては（自分は観光業です）、八重山諸島等を参考に奄美群島を一つの観光地としてイメージさせる戦略が合っていると思われる。②教育格差…鹿児島市内や都市部と比べて奄美は学力が低い。上を求めて鹿児島市内に進学する場合は経済的負担がかなり大きい。島の子供達の学力向上と島外への進学補助をお願いしたい。③奄美基金…社会的に振興すべきと思われる産業は優遇して欲しい。各産業に合わせた条件を民間と比較して決めて欲しい（宿泊業）。
- ・奄美群島振興開発事業は何をしているのか分からない。地域に全然開かれておらず、私たちにどのような影響があるのか分からない。良い事業をされているのであれば、もっと広く公表し積極的に地域と関わらなければもったいない。奄美群島のために行うのなら住民の意見をもっと取り入れ、奄美の発展を後押しして欲しい（宿泊業）。
- ・世界自然遺産に指定された事は大変素晴らしい事です。しかし、その中でのバランスが重要になると感じます。先人の残してくれた文化、風習を先の世代まで受け継ぎ、島が自立（観光、農業等）する事が重要となると思う。コロナ規制解除により、世界より観光客が押し寄せる可能性がある中、島の常識にそぐわない問題も発生すると思われます。その時のルール等を考えていた方が良くと考えます（宿泊業）。
- ・海岸線に近いホテル、別荘はもっと条件を厳しくし、自然の浜は島内外の人が入れるようそのままの形を保って欲しい。リゾートホテルが建つと島民もその浜を使用できなくなり、自然も壊されると思います（宿泊業）。
- ・奄振が過去からの事業に継続的に使用されているが、紬だけに偏らずに、黒糖焼酎にも使えるようにして欲しい。物流費のサポートも小企業が受けられる様に変えて欲しい（黒糖焼酎関連産業）。
- ・もっと文化について教育出来る環境を。大人ももっと知る事を望む（黒糖焼酎関連産業）。
- ・喜界島へ日曜日、月曜日の船便が就航することで、群島内・県外からの観光客の誘致ができ、物や人の交流がさらに広く深まると思います（黒糖焼酎関連産業）。
- ・航空機運賃ですが、鹿児島～関東方面ももっと安く往来出来る様に補助をして欲しい。また、物価やガソリン等にも補助があると助かる。離島は色々高すぎる。生活費がかかり住みにくい（建設業）。
- ・奄美振興開発の人件費と紬の生産にお金と人を取られすぎて農地は荒地になっている。優秀な若者は都会に行き、人口も減っている。紬に替わる産業を興し、若者の働ける場所を増やすべき。利権の絡んだ業者だけ金持ちになり、他の職種の働き手がいなくなっている。Uターン、Iターンの人々の働ける場所が欲しい（建設業）。
- ・①長期的な観点での食料自給率の向上を目指した取り組みとして、奄美振興開発事業を活用する。そして、全国のモデル事業となるような農林水産業の機械化産業を官・民共同事業を行い、若年層、U・Iターン者の就業先を拡充する。②兼業農家への支援策を打ち出す。専業農家との格差を是正する（建設業）。
- ・もっと若い人が生活しやすい奄美になってくれれば、島に残る若者が増えると思う（建設業）。
- ・県は遠えど、沖縄と同等の扱いをして欲しい（建設業）。
- ・安心、安全に暮らせる群島になって欲しい（建設業）。
- ・無電柱化を実施して欲しい（建設業）。
- ・島にルーツを持つ人達が自分の生まれた土地に戻り、結の気持ちで営む生活を取り戻して欲しい。産業や経済はそれに矛盾しない形で発展して欲しい（建設業）。

○具体的な意見・提言（続き）

- ・輸送コスト支援事業等をもっと広く一般にも使えるような制度にして欲しい（建設業）。
- ・奄美は以前に比べ自衛隊誘致等により人口が増えた気がするが、まだまだ人口減少に歯止めがかかっていない。移住したいという方も多く見受けられるが、地価の高騰及び空き家、県営・市営住宅の老朽化等もあり、受け入れ体制が整っていない状況である。昔から住んでいる島民として移住者は歓迎したいので、住居関係の整備を早めをお願いしたい（移住希望者の方に話を聞いたが、空き家や公営住宅が古すぎて住むのには困難だと言っている）（建設業）。
- ・100年位開発をせず、今のままの自然を残して欲しい（建設業）。
- ・物価、家賃が高い割に1人当たりの所得が低いので、若い人達が結婚して子育てをしていく中でどうしても共働きになってしまう。島の方々はとても人情味があるので、地域全体で子育て世代を応援できる様な場所が沢山出来ると良いと思う。学童だけではなく、集会所などを使ってそれぞれの得意な所を出し合うと、高齢者も豊かに老後を過ごせるのではと思います（建設業）。
- ・自然と共に生きる奄美群島は、色々な開発やIT機能などを駆使した産業を発展させると共に、昔ながらの家族の繋がり、結の心、周りの身近な事へ心配りなど、人と人との繋がりをもう一度見直す事も大事なと思います。ひいてはそれが日本国中に波及する事を願いつつ、その為の整備も検討して頂きたい（バス停などへのヒップバー設置）（建設業）。
- ・一部の大手企業にしか利点がない（建設業）。
- ・友達が島に来た時、空港のイメージが悪いと言っていました。窓には埃があり残念だとの事です。もっと綺麗にしたら良いのにとおもいます（建設業）。
- ・各家々の屋根に再生可能エネルギー等を取り付け、電力不足に向けて取り組む（その為に補助金等があれば尚良い）。島内全域に桜の木を植えて良い場所のマップを配布し、各島民が色々な事の記念樹として植え、根付くまでは植えた人達が毎年管理する（5年～10年。例えば、年祝の記念樹、同窓会等、家族単位、個人でも）。本土がまだ寒く花の咲く前に奄美の島全体がピンクの桜でいっぱいになったら嬉しいです。可愛いサクランボも何かに活かしたらいいです。その後は間口管理→その緑道の前の家の方の間口分を管理してもらう。出来ない所を行政が行う（建設業）。
- ・事業所としてではなく私事です、20数年前、高校の授業で先生が奄美振興事業の事を話してくれました。奄振は奄美にとって大きな役割を担っている（もっと具体的な話を聞いたと思いますが、もうぼんやりとしか覚えていません）と聞きました。子供ながらに奄振ってすごいんだと思ったものです。先生は今後、いつか奄美が自立した時には奄振は無くなるんだよとも話していました。それからだいぶ時間が経ちましたが、奄美は自立しているのでしょうか。少子化も進み過疎化も増えています、世界自然遺産になってしまい産業も観光もインフラも追いついていない気がします。まだしばらくは奄振が必要なのではないのでしょうか（建設業）。
- ・イラスト入りミニハンドブック（そーだったのか復興開発。既にあるかもしれないが）を作成しPRをする方法を考えてはどうか（建設業）。
- ・飛行機を利用する際に島民は離島割引を使えますが、島外の人達にも同様の割引や補助があれば、より多くの人達が行き来しやすくなると思います。I・Uターン者には引っ越しの際など少しでも補助があれば、人口がもっと増えやすくなると思います。（建設業）
- ・20年分の基金を前借りして、以後運用益で事業化する。または、沖縄を本土以南の琉球諸島全体に拡大適用させる。奄美が一番損をしていると思う（建設業）。
- ・今の制度は奄美全体が生活保護世帯のようで気に入らない！基地建設などもっと日本のためになる補助金利用して欲しい（建設業）。
- ・雇用・人材育成の観点で、島外への講習や資格取得など合格した際の補助金の創出（島外へ教育のために従業員を出すことが経済的に難しい。）（建設業）
- ・群島内を往来する飛行機をジェット化して欲しい。そうすればもっと観光客が来ると思う（卸売・小売業）。
- ・国の防衛という観点からも人口減少を防がなくてはならない。その為にも産業復興は欠かせないと思う。（卸売・小売業）

○具体的な意見・提言（続き）

- ・ 今までの振興予算はハード事業・開発事業が主であったと思うが、今後は奄美らしさに戻すためのメンテナンス的な事業に使った方が良い。例えば、護岸はテトラポットに入り込んだ膨大なゴミの回収を行い、景観に考慮しつつ防災を兼ね備えたものに造り変えることは出来ないだろうか。奄美独特の文化・価値を発信し、島外にいる奄美出身者達との交流イベント等も定期的に開催したら良いと思う（卸売・小売業）。
- ・ リサイクル対策の充実（卸売・小売業）
- ・ これからの奄美に必要なものは、文化、産業、技術、スポーツ等全て人材育成に尽きる。能力を見出し、埋もれさせない様後方支援（金銭面を含む）を充実させ、成長する経過、過程を重視し、結果に執着しないやり方をするべき。分類別教育にかかる費用、物品支援、生活環境支援もする。小中高大専、訓練校はケチな予算を組まず、還元も求めず、子供達に伸び伸びと学ばせるべき。10年後、20年後に今の子供達が奄美にもたらす効果を期待したい（卸売・小売業）。
- ・ 奄美本島のトンネルばかり作らないでもっと、南三島の為になる事を願うところです（卸売・小売業）。
- ・ 中国系企業や中国系個人の進出（土地売買）を防いで欲しい（卸売・小売業）。
- ・ 奄美の所得の底上げ、休日の在り方（卸売・小売業）。
- ・ 輸送コスト（加工品）の原料の仕入れから出荷までのトータルの支援について、分かりづらいので利用していない。農林水産物以上の支援を望む（卸売・小売業）。
- ・ どんなにインフラを整備したところで住みにくい、働きづらい、が改善されません。「この島の中で、経済が回っている」と島民が実感できるレベルまで持っていくことが必要。一部の既得権益者、またそれに媚を売る者達だけの為に使用されていると思われる「奄振」も変化していかななくてはならない。島を出て行く人々は、この島に将来のビジョンが無いから出て行く。ならば、ビジョンを見せる事の出来るリーダーの育成、それと島民の他力本願な体質も変えなければならない（卸売・小売業）。
- ・ 奄美をハブ空港にし、南三島を含め奄美を全体とした循環型の観光。鹿児島と沖縄の中間地点としての地利を活かした産業復興（卸売・小売業）。
- ・ ①雨の多い地域なので、雨の日でも安心して遊べる（子供達から観光客まで）施設が欲しい。②大浜の海洋展示館をもっと大規模な施設にして欲しい。③住用の世界自然センターの様な施設をもっと色々な分野で増やして欲しい。④道路を広くしたりするだけでなく、もっと街全体が活気が出るような取り組みをして欲しい。例えば、街中にバスセンターを作る（広くてゆったりとしたサービスエリア的なもの）。公営の立体駐車場等を作る。お土産センターを作る。おしゃれなマルシェを公営で作し、貸し出すなど（卸売・小売業）。
- ・ 住民の反応、フィードバックを得るためのアンケート調査は良い取り組みだと思います。また、アンケートの設問や文章も公正、中立性があり良いと思いました（卸売・小売業）。
- ・ 世界自然遺産になった事でコロナ収束後インバウンドの流入が予測されるが、受け入れ体制が整っていない。島のイメージや自然を守る為には、ある程度の規制も必要（入島規制など）（観光関連産業）。
- ・ 奄美群島の復興開発に関して、奄美開発基金の存在は非常に有難く思います（運輸業）。
- ・ 世界遺産になったからこそ、特別措置法が更に必要なのではないかと思います。奄美、日本、世界の為に（運輸業）。
- ・ 航空券の補助は引き続き行って欲しい（飲食店）。
- ・ 各企業が様々な特産品を生産しているが、中にはお世辞にも美味しいとは言えないものが多い。そんな特産品を買って帰る観光客を見ると悲しくなる。お土産品店や空港等に並んでいる商品は、しっかりと味や品質等の審査をする管理体制が必要なのではないか（医療・福祉）。
- ・ 大切な奄美がより素敵な島になるように頑張りましょう（医療・福祉）。
- ・ 奄美のトレイルの充実。多様化を目的にした県単位での取り組みが必要（医療・福祉）。
- ・ ハード面の充実で土木業などの発展には貢献してきたと思われるが、ソフト面での充実はまだまだだと思います。地元商業の発展には程遠いものがあると感じる。地元の基幹産業の充実を図っていくべきだと思います（医療・福祉）。
- ・ 輸送コストが高すぎる。燃料も高すぎる（医療・福祉）。
- ・ 奄美は単身用の居住が殆ど無い。北大島に空き家が無く、住む事が出来ない（医療・福祉）。

○具体的な意見・提言（続き）

- ・ 現在ほとんど意味をなさず維持にお金がかかっているようなインフラ（護岸や砂防ダムなど）は撤去することにお金を使ってほしい。維持費がかからなくなるだけでなく、世界自然遺産にふさわしい行為という称賛を得ると思う（医療・福祉）。
- ・ 同じ奄美群島でも各離島により振興業の格差が大きい振興開発は一部の団体へしか助成や利益がないように感じる。振興開発の理由で作った老朽化した施設の修繕をし、新規の建物は費用の削減の為造らないでほしい（医療・福祉）。
- ・ 雇用対策として、外国人の受入促進（医療・福祉）
- ・ 加工食品等を発展させることで、農作物等の価格安定につなげてほしい。台風等の天候に左右されない情報通信環境の整備をしてほしい。また、その事で教育文化を発展させてほしい。その他にも様々な事を発展させることにつなげたい。島の良さや特性も最大限活かす（引き出せる）ように取り組んでほしい。豊かな自然を守りつつ、美しい町づくり。住みやすい安全な町づくりに取り組んでほしい（医療・福祉）。
- ・ 資本金という概念がない社会福祉事業者に資本金を聞く設問があるこのアンケートを出している事自体、おかしい。営利企業向けの設問ばかりで設問の選定が適切ではないと感じる。当たり前のように「共生ネットワーク」という言葉が設問に出てきているが、ネット検索でも出てこない言葉を設問に使っても答えられない。奄美大島は世界自然遺産に登録されたがPM2.5の数値すら調べる施設がない。大陸からの汚染物質に関しては無視していて世界自然遺産の島とは言えない（医療・福祉）。
- ・ 何をするにも離党は交通機関のハンディなどある。継続的な離島の補助金、助成金は続けてもらいたい（医療・福祉）。
- ・ 世界自然遺産登録がゴールではなく、自然を守り残していくための新たなスタートにしていきたい（その他のサービス業）。
- ・ 地域医療の充実度。日本で誇れる位置にある奄美の住民が認識し、もっと良くするにはと意識を変える事が必要。自然、医療の充実度を地域が情報発信する事が必要（その他）。
- ・ 沖縄との差が明確。もっとより良い政策を期待します（その他）。

参考資料

アンケート調査票

5 事業所用

あなたの事業所のことについて

F 1 貴事業所の業種は何ですか。(主たる業種を、次の中から1つ選んでください。)

- | | |
|------------------------------|--------------|
| 1 農業 | 2 林業 |
| 3 水産業 | 4 建設業 |
| 5 黒糖焼酎関連産業 | 6 大島紬関連産業 |
| 7 6次産業化※による特産品関連産業 | |
| 8 製造業（黒糖焼酎関連産業及び大島紬関連産業を除く。） | |
| 9 情報通信関連産業 | 10 運輸業 |
| 11 卸売・小売業 | 12 飲食店 |
| 13 宿泊業 | 14 観光関連産業 |
| 15 医療・福祉 | 16 その他のサービス業 |
| 17 その他（ ） | |

F1

※ 6次産業化・・・農業や水産業などの第1次産業従事者が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態

F 2 資本金規模についてお伺いします。(次の中から該当するものを選んでください。)

- 1 300万円未満
- 2 300万円以上500万円未満
- 3 500万円以上1,000万円未満
- 4 1,000万円以上3,000万円未満
- 5 3,000万円以上5,000万円未満
- 6 5,000万円以上
- 7 個人営業

F2

F 3 従業員数についてお伺いします。(次の中から該当するものを選んでください。なお、役員、正社員・正職員、アルバイト・パートも含まれます。)

- 1 4人未満
- 2 4人以上10人未満
- 3 10人以上20人未満
- 4 20人以上30人未満
- 5 30人以上50人未満
- 6 50人以上100人未満
- 7 100人以上200人未満
- 8 200人以上

F3

【事業所用】

A 貴事業所の事業展開について

問 1 今後（概ね 5 年以内），設備投資の予定はありますか。（次の中から 1 つ選んでください。）

- 1 ある
- 2 ない

問 1

問 2 今後，現在の事業を拡大する意向がありますか。（次の中から 1 つ選んでください。）

- 1 ある
- 2 ない

問 2

問 3 今後，現在の業種以外の新分野に進出する意向がありますか。（次の中から 1 つ選んでください。）

- 1 ある → 問 4 へ
- 2 ない → 問 5 へ

問 3

【問 4 は，問 3 で 1 と回答された事業所にお聞きます。】

問 4 今後，進出したい新分野はどのような分野ですか。（次の中から 1 つ選んでください。）

- 1 農業
- 2 林業
- 3 水産業
- 4 建設業
- 5 黒糖焼酎関連産業
- 6 大島紬関連産業
- 7 6 次産業化※による特産品関連産業
- 8 製造業（黒糖焼酎関連産業及び大島紬関連産業を除く。）
- 9 情報通信関連産業
- 10 エネルギー関連産業
- 11 運輸業
- 12 卸売・小売業
- 13 飲食店
- 14 宿泊業
- 15 観光関連産業
- 16 医療・福祉
- 17 その他のサービス業
- 18 その他（ ）

問 4

※ 6 次産業化・・・農業や水産業などの第 1 次産業従事者が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態

【事業所用】

1	販路拡大などの営業強化	2	生産能力の拡充
3	新商品・新サービスの開発	4	生産・取扱い品目の拡大
5	研究開発の強化	6	情報化の推進
7	経営の多角化，新分野への進出	8	人材の育成・確保
9	生産コストの削減	10	流通コストの削減
11	人件費の削減	12	借入金の削減
13	事業規模・内容に見合った資金計画の策定		
14	群島外の企業との交流・連携		
15	異業種との交流・連携		
16	環境問題への対応の充実		
17	事業を展開する上での障壁（制度等）の撤廃（具体的な制度： ）		
18	その他（ ）		
19	わからない		

問 5

奄美基金は、奄美群島振興開発特別措置法に基づき設立された独立行政法人です。一般の金融機関が行う金融を補完し、又は奨励することを目的として、融資、保証の金融業務を幅広く行っている機関です。

1	民間金融機関の融資（奄美基金の保証あり）を利用（銀行、信用金庫、信用組合など）	問 6
2	民間金融機関の融資（県保証協会の保証あり）を利用（銀行、信用金庫、信用組合など）	
3	民間金融機関の融資（奄美基金又は県保証協会の保証なし）を利用（銀行、信用金庫、信用組合など）	
4	奄美基金の融資を利用	
5	日本政策金融公庫の融資を利用	
6	農業協同組合、信用漁業協同組合連合会などの融資を利用	
7	県中小企業融資制度などの地方公共団体の融資を利用	
8	自己資金のみで対応	
9	その他（ ）	

1 現在利用している
2 過去に利用していた
3 利用したことがない

- 39 -

【問 8, 9 は, 問 7 で 1 又は 2 と回答された事業所にお聞きします。】

問 8 貴事業所が奄美基金を利用した目的又は動機をお伺いします。(次の中から 2 つまで, 優先順位の高い方から選んでください。)

- 1 創業時に資金を借りることができた
- 2 長期かつ低利で融資又は保証を利用できた
- 3 借入以外で経営支援のアドバイスをしてもらった
- 4 他事業者とのマッチング(取引先確保)につながった
- 5 民間金融機関で借入利用ができなかった時に資金調達(利用)ができた
- 6 特になし

問 8	
1 番	
2 番	

問 9 奄美基金を利用する際の利点は何ですか。(次の中から 2 つまで, 優先順位の高い方から選んでください。)

【制度・手続】

- 1 金利面(低利)で有利だから
- 2 貸付期間が長期対応できるから
- 3 融資制度の種類が充実しているから
- 4 融資だけでなく保証も実施しているから
- 5 提出書類など, 申し込み手続が簡便だから
- 6 審査が早いから

【コンサルティング機能】

- 7 経営課題を解決するため, 定期的な訪問によるアドバイスや外部の専門家を紹介するなど経営や財務に関する助言・情報が得られるから

【その他】

- 8 本部(支店)が地元であり, 職員が地元出身で地域に密着した機関であるため安心感があるから
- 9 奄美基金が事業内容を理解しており, 利用しやすいから
- 10 奄美群島の産業振興のために設立された公的機関であり安心感があるから
- 11 その他()

問 9	
1 番	
2 番	

【以下, すべての事業所にお聞きします。】

問 10 今後, 奄美基金に期待することは何ですか。(次の中から 2 つまで, 優先順位の高い方から選んでください。また, 2 と回答された方は, 具体的な融資又は保証の種類をご記入ください。)

【制度・手続】

- 1 金利又は保証料の低減
- 2 融資又は保証の種類(具体的に:)
- 3 コロナ対応等の経済対策に対する融資又は保証
- 4 保証人・担保徴求条件等の緩和
- 5 手続の簡素化
- 6 審査の迅速化

【コンサルティング機能】

- 7 新規創業, 事業転換・多角化, 事業再生等に関する助言などの経営支援の充実
- 8 財務や資金調達に関する助言などの経営支援の充実
- 9 活用可能な各種補助金等の提案
- 10 群島内経済状況などの情報発信
- 11 事業者向け経営セミナーの定期的開催

【その他】

- 12 異業種交流のコーディネート
- 13 その他()

問 10	
1 番	
2 番	

【事業所用】

問 11 貴事業所における、今後の奄美基金の利用意向についてお伺いします。（次の中から1つ選んでください。また、5と回答された方は、利用したい新たな制度について具体的にご記入ください。）

- 1 融資制度を利用したい
- 2 保証制度を利用したい
- 3 融資制度・保証制度の両方とも利用したい
- 4 経営全般に関する相談、経営セミナーや各種補助金に関する相談等を依頼したい
- 5 新たな制度（出資業務など）ができれば利用したい
（具体的に： _____）
- 6 利用する予定はない

問 11

問 12 問 11 で「利用する予定はない」を選択した理由についてお伺いします。（次の中から1つ選んでください。）

- 1 他機関と比較して金利が高いから
- 2 申込手続きが面倒だから
- 3 審査が厳しそうだから
- 4 他にメインとする金融機関があるから
- 5 奄美基金について詳細を知らないから
- 6 その他（ _____ ）

問 12

C 産業の振興について

問 13 貴事業所が立地している島の発展、振興のためには、今後、どの産業に力を入れたら良いと思いますか。（次の中から3つ選んでください。）

- 1 さとうきびを基幹とした農業
- 2 亜熱帯気候を生かした園芸農業（花、果樹、野菜）
- 3 畜産業を中心にした農業
- 4 上記以外の農業
- 5 林業
- 6 養殖業
- 7 上記以外の漁業
- 8 建設業
- 9 黒糖焼酎関連産業
- 10 大島紬関連産業
- 11 生産者自らが地域の農林水産物を加工・販売する6次産業化※の取組
- 12 製造業（黒糖焼酎関連産業及び大島紬関連産業を除く。）
- 13 情報通信関連産業
- 14 商業
- 15 観光関連産業
- 16 運輸業
- 17 その他（ _____ ）
- 18 わからない

問 13

※ 6次産業化・・・農業や水産業などの第1次産業従事者が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態

【事業所用】

問 14 貴事業所が立地している島の水産業の振興を図るためには、今後、何に力を入れたら良いと思いますか。（次の中から2つ選んでください。）

- 1 漁港施設の整備
- 2 漁船の大型化、装備の近代化
- 3 種苗の放流や稚仔魚の保護などの栽培漁業の推進
- 4 魚礁（浮魚礁を含む）、藻場等の造成やサメ駆除などの漁場環境の改善
- 5 適正な漁場利用に配慮した養殖業の推進
- 6 融資・保証制度の拡充・強化
- 7 後継者の育成
- 8 新規就業者の支援
- 9 市場情報の入手等生産物の販売強化
- 10 大都市市場までの輸送体制の整備（コスト面は除く）
- 11 島外へ出荷する際の輸送コストの軽減
- 12 原材料等を島内へ入荷する際の輸送コストの軽減
- 13 水産加工品の開発・商品化技術の向上
- 14 漁協の経済事業の強化
- 15 経営管理能力の向上
- 16 ブランド力の追加
- 17 その他（ ）
- 18 わからない

問 14

問 15 雇用の創出・確保を図るためには、今後、何に力を入れたら良いと思いますか。（次の中から3つ選んでください。）

- 1 企業の立地（誘致）
- 2 雇用を拡大する地元企業への助成制度の充実
- 3 雇用創出基金などの拡充
- 4 地元企業の新事業への進出
- 5 地元企業への金融支援
- 6 起業支援（自ら事業を始めようとする者に対する支援）
- 7 就職相談・斡旋
- 8 求職者のための職業訓練・人材育成
- 9 住民や島外からのU I J ターン者が島の複数の仕事に柔軟な形態で従事できる機会の創出・拡充（特定地域づくり協同組合制度※の活用等）
- 10 税制特例措置の拡充
- 11 その他（ ）
- 12 わからない

問 15

※ 特定地域づくり協同組合制度・・・人口急減地域において、中小企業等協同組合法に基づく事業協同組合が、特定地域づくり事業を行う場合について、都道府県知事が一定の要件を満たすものとして認定したときは、労働者派遣事業を許可ではなく、届出で実施することを可能とするともに、組合運営費について財政支援を受けることができるようにするというもの。

【事業所用】

D 奄美群島振興開発事業の評価と期待について

問 16 国、県、市町村は、奄美群島の自立的発展を図るため、奄美群島振興開発特別措置法に基づき、別紙資料のような事業（これらを奄美群島振興開発事業といいます。）を実施しています。これにより、事業所では経営面においてどのような効果がありましたか。（次の中から2つ選んでください。）

- 1 農地や漁港などの生産基盤施設が整備され、安定した生産、出荷ができるようになった
- 2 台風などの自然災害の被害をあまり受けなくなった
- 3 道路・港湾・空港など交通基盤が整備され、輸送効率が向上した
- 4 観光施策の充実により、観光客が増え、売上が増加した
- 5 航路・航空路運賃の軽減により、観光客が増え、売上が増加した
- 6 ブロードバンドなど情報通信基盤の整備で、ビジネスチャンスが拡大した
- 7 大都市圏でのPR活動等により、売上が増加した
- 8 群島外との交流が活発化し、ビジネスチャンスが拡大した
- 9 奄振事業による仕事で事業が安定・発展した
- 10 奄美群島振興開発基金の支援により、事業が安定・発展した
- 11 経営とは直接関係ない
- 12 その他（ ）

問 16

問 17 奄美群島振興開発事業では、次の事業を実施してきました。
あなたは、それぞれの事業について、現状を「満足度」で表すと、どのように評価されますか。（評価（満足度）にあてはまる番号（1～5）を1つ選んでください。）

事業内容	満足度	満足	ほぼ満足	やや不満	不満	わからない
定住を促進するための方策						
産業の振興						
農業（かんがい排水事業など農業基盤整備や付加価値の高い生産、販売、流通に向けた取組など）	1	2	3	4	5	
情報通信（情報通信技術の高度化や多様化に対応できる人材育成の取組など）	1	2	3	4	5	
水産業（漁場、漁港整備の推進、栽培漁業の推進など）	1	2	3	4	5	
林業（森林環境保全整備、林道整備、森林資源活用調査など）	1	2	3	4	5	
商工業（特産品販路拡大促進、人材育成、企業誘致など）	1	2	3	4	5	
移住・交流の促進	1	2	3	4	5	
世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策						
世界自然遺産登録を見据えた取組の推進（国立公園等保護地域の管理、希少種の保護対策など）	1	2	3	4	5	
共生ネットワークの形成	1	2	3	4	5	
群島内外との交流の促進	1	2	3	4	5	

【事業所用】

滞在型・着地型観光を促進するための方策					
地域資源を生かした観光施策の展開（受入体制の整備、観光情報の発信など）	1	2	3	4	5
愛着を育む地域文化の継承、創造	1	2	3	4	5
奄美群島が抱える条件不利性の改善					
航空運賃の軽減 奄美群島における島外への移動コストの負担軽減を図るため、奄美群島の住民等を対象とした航空運賃の一部助成を行っています。	1	2	3	4	5
航路運賃の軽減 奄美群島における島外への移動コストの負担軽減を図るため、奄美群島の住民等を対象とした航路運賃の一部助成を行っています。	1	2	3	4	5
群島内の誘客・周遊促進 奄美群島内での効果の波及を図るため、航空・航路事業者と連携したプロモーションを行っています。	1	2	3	4	5
奄美・沖縄の連携交流促進 奄美群島と沖縄の住民等の交流を促進するため、奄美群島発及び沖縄発の航空運賃と航路運賃の一部助成を行っています。	1	2	3	4	5
農林水産物等の輸送コスト支援 奄美群島における農林水産物等の輸送コストの負担軽減を図るため、本土と比べ割高となっている農林水産物等の輸送費の一部助成を行っています。	1	2	3	4	5
水産物流通支援事業 奄美群島における水産業の振興を図るため、水産物の出荷団体が、奄美群島から沖縄本島まで出荷する際の輸送費の一部を補助しています。	1	2	3	4	5
奄美群島成長戦略の推進 奄美群島の自立的発展を図るため、市町村、広域事務組合等による地域の裁量に基づく産業振興等の取組を支援しています。	1	2	3	4	5
物価の軽減（国の支援制度による離島のガソリン価格の引き下げなど）	1	2	3	4	5
交通基盤の整備					
航空交通（空港施設の更新・改良など）	1	2	3	4	5
海上交通（港湾施設の整備や維持管理、老朽化対策の推進など）	1	2	3	4	5
陸上交通（国・県・市町村道の整備や維持管理など）	1	2	3	4	5
防災及び国土保全					
消防防災の充実（防災関連施設の整備など）	1	2	3	4	5
治山対策の推進（治山対策の推進、海岸防災林の整備の推進など）	1	2	3	4	5
治水対策の推進（河川の改修、急傾斜地崩壊対策、地すべり対策の推進など）	1	2	3	4	5
海岸保全の推進（堤防、護岸等の海岸保全施設の整備の推進など）	1	2	3	4	5
港湾整備の推進（耐震強化岸壁や防災拠点緑地等の整備の推進など）	1	2	3	4	5

【事業所用】

奄美群島の生活基盤の確保・充実					
保健医療福祉					
保健医療（健康づくり、医療提供体制の整備など）	1	2	3	4	5
ハブ対策（ハブ駆除対策、ハブ咬傷対策）	1	2	3	4	5
社会福祉（高齢者・児童福祉等の推進など）	1	2	3	4	5
教育及び人材育成					
教育（学校教育や生涯学習の充実）	1	2	3	4	5
人材育成（地域、くらし、産業を支える人材の育成・確保）	1	2	3	4	5
生活環境					
水道（未普及地域の水道整備、既設の水道施設の統合整備や施設の更新等の促進など）	1	2	3	4	5
都市基盤（生活排水処理施設の整備促進など）	1	2	3	4	5
住環境の整備（老朽化した公営住宅の建替えや長寿命化計画に基づく既存住宅の長寿命化等の促進など）	1	2	3	4	5
安全・安心まちづくりの推進（犯罪の未然防止や交通安全思想の普及啓発など）	1	2	3	4	5
地域環境の保全（水環境の保全、騒音・悪臭等の防止、ヤンバルトサカヤスデの駆除など）	1	2	3	4	5
循環型社会の形成	1	2	3	4	5
自然環境配慮型・自然再生型公共事業等の実施	1	2	3	4	5
資源・エネルギー					
水資源（老朽化したため池等の改修を推進し水資源の安定確保に努めるなど）	1	2	3	4	5
再生可能エネルギー（地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入の促進など）	1	2	3	4	5
電力（電力の需要状況等の的確な把握など）	1	2	3	4	5

問 18 沖縄県において振興している次の各種施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策を、次のうちから3つ選んでください。

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 1 観光・リゾート産業 | 2 情報通信関連産業 |
| 3 国際物流拠点事業 | 4 産業イノベーションの推進 |
| 5 金融業 | 6 農業 |
| 7 林業 | 8 水産業 |
| 9 中小企業の振興 | 10 その他の施策（ ） |

問 18

【事業所用】

問 19 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島は、国際的にも希少な固有種の生息・生育地となっています。このように生物多様性を保全していく上で重要な地域であることがこの4地域の世界遺産としての価値となっています。あなたはこのことについてご存じでしたか。（次の中から1つ選んでください。）

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

問 19

問 20 下記の活動や講演会などのうち、過去1年間に参加したことがあるものを全て選んでください。

- 1 ゴミ拾いなど地域の美化活動
- 2 自然や生きものの観察会
- 3 盗掘防止パトロールやモニタリング調査
- 4 外来植物の抜き取り作業など外来種駆除
- 5 世界遺産や自然に関する講演会やシンポジウム等

問 20

問 21 奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったことで期待できることとして、下記の意見や予想をどのように思いますか。それぞれあてはまる番号（1～5）を1つ選んでください。

	とても 思う	思う	分から ない	思わ ない	全く思 わない
地域の知名度や人気が高まる	1	2	3	4	5
貴重な動植物や自然が守られる	1	2	3	4	5
美しい景色が守られる	1	2	3	4	5
地域経済が活性化し、雇用が増える	1	2	3	4	5
農産物・加工品の売り上げが増える	1	2	3	4	5
観光関連の収益が増える	1	2	3	4	5
観光マナーがより徹底される	1	2	3	4	5
飲食店やお店が増え、生活しやすくなる	1	2	3	4	5
移住者が増え、人口減少の歯止めとなる	1	2	3	4	5

問 22 奄美大島と徳之島が世界自然遺産になったために懸念または心配することとして、下記の意見や予想をどのように思いますか。それぞれあてはまる番号（1～5）を1つ選んでください。

	とても 思う	思う	分から ない	思わ ない	全く思 わない
利用者が増えて自然環境が劣化する	1	2	3	4	5
生きものの交通事故が増える	1	2	3	4	5
希少生物を無断でとる人が増える	1	2	3	4	5
農作物や果樹への鳥獣被害が増える	1	2	3	4	5
観光客によるゴミのポイ捨てが増える	1	2	3	4	5
観光案内所やトイレなどの施設が不足する	1	2	3	4	5
交通量が増え、道路が混雑する	1	2	3	4	5
観光客が生活圏に入り、騒がしくなる	1	2	3	4	5
規制により猟や山菜採りができなくなる	1	2	3	4	5

【事業所用】

問 23 奄美群島の将来を考える上で、奄美群島の今後の問題点は何だと思われますか。（次の中から3つ選んでください。）

- 1 農業の衰退
- 2 観光客の増加への対応
- 3 第5世代移动通信システム(5G)の整備
- 4 人口の減少
- 5 奄美特有の伝統や文化の衰退
- 6 就業機会の減少
- 7 自然破壊
- 8 再生可能エネルギーの導入
- 9 本土との経済格差
- 10 人やモノの輸送コストが高い
- 11 少子・高齢化の進行
- 12 その他（ ）
- 13 特にない
- 14 わからない

問 23

問 24 奄美群島は、将来どのような島になって欲しいですか。（次の中から2つ選んでください。）

- 1 温暖な気候を生かした農業の島
- 2 海洋資源を生かした漁業の島
- 3 森林資源を生かした林業の島
- 4 大島紬などの伝統産業が栄える島
- 5 島の資源を活用した特産品産業が栄える島
- 6 全国から多くの観光客が訪れる島
- 7 情報通信関連産業の盛んな島
- 8 豊かな自然に恵まれた島
- 9 奄美の伝統文化の息づく島
- 10 人情味あふれた心豊かな島
- 11 医療や福祉が充実した子育て・高齢者に優しい島
- 12 災害に強く安全に暮らせる島
- 13 その他（ ）
- 14 わからない

問 24

問 25 奄美群島振興開発特別措置法の有効期限は、令和6年3月までとなっておりますが、このことについてどう思いますか。（次の中から1つ選んでください。）

- 1 歴史的にも特別の経緯を持つ地域であり、今後とも国の特別措置が必要である。
- 2 他の地域に比べ多くの面で格差があり、今後とも国の特別措置が必要である。
- 3 奄美群島の自立的発展のためには、地域の努力に加えて、まだ国の特別措置が必要である。
- 4 今後は、地域の課題として取り組むべきであり、国の特別措置はもう必要ない。
- 5 奄美群島の振興のためになっていないので、やめるべきである。
- 6 その他（ ）
- 7 わからない

問 25

【事業所用】

問 26 今後、貴事業所が事業展開を図る上で、さらに充実させて欲しい奄美群島振興開発事業の分野は何ですか。（次の中から2つ選んでください。）

- 問 26

【事業所用】

奄美群島振興開発事業の概要

【これまでの経緯】

奄美群島においては、昭和28年に日本へ復帰して以来、数次の法改正に基づいて、各般にわたる事業が実施され、交通基盤、産業基盤、生活環境などの社会資本の整備が着実に進むなど相応の成果をあげてきている。

しかし、本土から遠隔の外海離島という地理的条件、台風常襲地帯であるなどの厳しい自然条件下にあり、本土との間には、所得水準や物価をはじめとする経済面の諸格差が依然として存在し、人口減少や高齢化の進展など、いまだ解決されない課題が残されている。

一方、平成26年4月の奄振法の延長に伴い、運賃の低廉化や輸送コスト支援などの条件不利性の改善や産業の振興のために地域の裁量に基づく施策の展開を促進する奄美群島振興交付金が創設され、ソフト施策を主体とした取組が進められてきたところである。

奄美群島は、亜熱帯・海洋性の豊かな自然、世界的にも貴重な動植物、個性的な伝統文化などを有しており、今後、世界自然遺産登録の効果を生かして、大きく発展する可能性を秘めている。

現行計画(R元-R6)のもと、奄美群島の自立的発展を目指し、国、県、地元市町村等がと一体となってハード・ソフトの両面から、効率的・効果的な施策の展開に努めている。

- 昭和20年 終戦
- 昭和21年 日本から行政分離され、約8年米国軍政下に統治される
- 昭和28年 日本に返還され、鹿児島県の行政管理下に編入される
- 昭和29年 奄美群島復興特別措置法を制定
- 昭和39年 奄美群島振興特別措置法と改称
- 昭和49年 奄美群島振興開発特別措置法と改称（以下数次の法改正）
- 平成26年 奄美群島振興開発特別措置法の一部改正
（奄美群島振興交付金の創設）
- 令和元年 奄美群島振興開発特別措置法の一部改正
（有効期限を令和5年度末まで5か年延長）

振興開発事業計画	主な事業（令和元年度～令和5年度見込み）
1 定住を促進するための方策	・農業基盤整備や付加価値の高い生産、販売、流通に向けた取組 ・情報通信技術の高度化や多様化に対応できる人材育成の取組 ・特産品販路拡大促進、人材育成、企業誘致
2 世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策	・世界自然遺産登録に向けた取組 ・自然環境の保全と利用の両立を図るための取組 ・群島内外との交流の促進 ・沖縄県との連携による移動コストの軽減や共同イベントの開催
3 滞在型・着地型観光を促進するための方策	・奄美の島唄・島口の伝承に係る取組 ・観光施設等の受入体制の整備 ・観光交通体系の整備
4 奄美群島が抱える条件不利性の改善	・航空運賃及び航路運賃、農林水産物等の輸送コストの軽減 ・国の支援制度による離島のガソリン価格の引き下げ ・交通基盤の整備（港湾・空港施設、道路の整備や老朽化対策の推進）
5 奄美群島の生活基盤の確保・充実	・奄美ドクターヘリなど、保健医療体制の整備 ・ハブ駆除対策、ハブ咬傷対策 ・学校教育、生涯学習の充実 ・水道、生活排水処理施設などの生活環境の整備
6 地域主体の取組の促進	・営農ハウス・平張り施設や共同利用機械の整備 ・奄美群島エコツーリズムの推進や観光物産広域連携の取組 ・希少野生動植物の保護、外来生物の駆除

【事業所用】